

WINET情報 CONTENTS

第2号 平成10年9月30日

巻頭言 田中 和子1

会館事業情報

地域の中の子どもの居場所づくり

「都市化社会の進行と家庭・

教育機能に関する調査研究」調査報告2

マーシャル諸島の女性の現状

「海外婦人教育情報専門家情報処理

研修事業」提出カントリーレポートから ...9

婦人教育情報センターより

「高等教育機関における女性学関連科目

データベース」の公開について13

書誌情報

雑誌記事インデックス15

テーマ展示図書案内44

新着図書案内49

お知らせ

年末臨時閉室のお知らせ

編集後記

田中 和子 国学院大学法学部教員

この夏、4年に一度開かれる国際社会学会（ISA）世界大会に出席するため、カナダのモントリオールを訪れた。世界中から4000人を集めて開催された本大会もさることながら、私の最大の関心事は、第32研究部会（RC32）のプレ・カンファレンスにあった。

ISAには、研究領域に従って50の研究部会が設けられている。「社会の中の女性」を扱うRC32は、これらの中でも最も多くの登録メンバーを擁する部会で、全体会議と各研究部会を軸にプログラムが組まれる本大会においては、「グローバル化と女性の政治 差異と多様性、分裂か連帯か？」の統一テーマのもと、15のセッションを組織した。これに加え、RC32は、大規模学会ではなかなか実現しにくい情報と研究成果のより緊密で直接的な相互交換をはかるため、本会議の前週に、参加者を少人数に絞った事前会議を企画したのである。多数の応募者の中から予め選ばれた30人は、半分が「経済的に南」の国、残り半分が「経済的に北」の国（ここでは「途上国」や「先進国」という言葉は、最後まで使われなかった）からの出席者であった。

「フェミニズムは社会学の伝統に挑戦する」という総合タイトルを掲げたこの会議では、初日夕刻のレセプションから一夜あけた二日目の朝から丸3日間にわたり、「理論に光をあてる」「開発を再考する」「自然的/社会的なるものの輪郭を明らかにする」「ジェンダーを定義する」「フェミニスト的生活を方法化する」の5つの論題をめぐって発表と討論が繰り広げられ、社会学研究における個人的経験の無視や公/私、理性/感情、労働/家族、自然/文化といった二分法使用の問題点、ジェンダー概念の有効性と危険性、女性を「変数」としてあるいは差異を無視した女性一般として扱う「開発」研究の問題点、研究者と被調査者の関係を対等なものにするための方法などが、理論と実践の両側面から吟味された。

これらの内容を詳しく紹介できないのは残念だが、一つだけ書きとめておきたいのは、女性の国際会議でしばしば目の当たりにする「南」と「北」の溝が、ここでもまたあらわになった事実である。ポスト・モダンを意識した抽象的議論への関心がより強い北からの参加者たちと、産児制限やダム開発をめぐる国家と草の根の女性たちの対立など具体的な解決課題と向き合う南からの参加者たち。五日目午前中半日を費やして行われた会議全体を振り返り、評価を加えるセッションでは、「延べ4日間の食費として支払った100ドルは、私の1か月の給料の10日分にあたる。それなのに、一度たりとも米の食事が出されることはなかった。いったい私はここへ何をしにきたのだろうか」というタイの若い研究者の発言に、重い沈黙がカンファレンス・ルームを覆う一場面もあった。

この、今もってまぎれもなく実在する「溝」の克服は、これからも、時には、遠回りを余儀なくさせる螺旋形を描きながらの、困難な道程となることだろう。それでも、「開発」現場の女性たちに寄り添い、その声に聴きながら、研究やプロジェクトに取り組む北の女性たちもまた、確実に増えている。国際女性年のメキシコ・トリビュン以来四半世紀近くにわたる女性たちのグローバルな対話の積み重ねが、この螺旋の輪の横幅を、少しずつではあるが着実に狭めていっていると、私には感じられたのである。

地域の中の子どもの居場所づくり

「都市化社会の進行と家庭・教育機能に関する調査研究」調査報告

家庭教育のあり方そのものが問われている中で、子どもの豊かな人間性をはぐくむため家庭や地域でどのように子どもを育てていけばよいのかが課題となっている。平成8年度から2年計画で実施された「都市化社会の進行と家庭・地域の教育機能に関する調査研究」の活動事例のヒアリング調査を通して、地域の中に、さまざまな新しい取組が進みつつあることが確認された。ここでは、調査結果をもとに地域の教育力を活性化させ、地域の中に子どもの居場所を作るためのポイントを考えてみたい。

1 異年齢集団の形成

地域内に異年齢交流の場を意識的、自覚的に作っていくことが必要とされている。

現在の子どもたちの状況を見ると、友人や兄弟姉妹数ともに減少しており、友人も同年齢のものが多いという傾向がみられ、子どもたちの人間関係を作る力の弱さなど社会性の不足が危惧されている。こうした中、地域社会の中でさまざまな年齢の友人と交流しさまざまな生活体験、社会体験、自然体験を豊富に積み重ねることが必要とされている。かつて子ども集団の中でできていた異年齢交流が、今では自然に形成されるものではなくなっている。意識的、自覚的に作っていく必要がある。

2 社会的アネキ、社会的アネキ

青年は子どもたちにとって社会的アネキ、アネキとして重要な意味を持っている。

青年には、兄弟姉妹の少ない子どもたちにとってはちょっと上の「お姉ちゃん」「お兄ちゃん」として、親や先生といった「大人」とはひと味違った関係が期待できる。子どもたちの異年齢集団を、さらに子どもたちを大人の社会へとつなぐ上で、青年の果たす役割は大きい。

青年は、年齢的にも生活経験の上でも子どもと大人の中間的な存在である。子どもが成長する上で追いつき、追い越す対象として身近な役割モデルを持つことは、子どもにとってとりわけ重要な意味を持っている。青年たちは子育ての専門家ではない。彼らはよいことも教えるけれど、時には悪いことも教える。「悪い」ことも大人になっていく上では重要である。青年は社会的なアネキやアネキとして子どもが大人になっていく手助けをしてくれる。また青年にとっては、責任を持って子どもたちの世話をする体験、その中で喧嘩の仲裁や人間関係の調整、悩みの相談などを引き受けることによって子どもたちに信頼され、あてにされる自分を確かめ、自分に対する「自信」を回復することができる。学校に通う子どもたちが、先生でもなく親でもない、気の置けない若者に感じる親しみが子どもを解きほぐし、同時に若者自身を解放するという効果が生まれる。

【事例】沖縄県浦添市内間青年会エイサー

沖縄県浦添市内間青年会では沖縄の伝統芸能エイサーの継承を通して、子どもと地域のパイプ役として青年の力がある。エイサーは旧暦の7月15日の精霊送りをすませた男女が、祖先の供養と穀物の豊穡を祈願して各家を回ったのに



沖縄エイサー

始まったといわれる盆踊りのようなもので、大太鼓やパーランクーをたたき再結成された。その後中学校で集団的いじめによって1人の生徒が死亡した事件をきっかけに青年団が地域の子ども会に呼びかけ、毎週土曜日の夜に小学校の体育館で青年団による子ども会へのエイサー指導が始まったのである。学校をさぼってもエイサーの指導や練習に顔を出す高校生。子どもたちの練習を見物に来て踊り出す親。時には教師も顔を見せる。練習がすすんでも青年たちとドッチボールやバレーボールなどをして、練習の回を重ねるごとに青年と子どもの親密度が増している。また若い後継者を育てるためにエイサーを復活した初代会長は2年で会長を次の人に引き継いでいる。

3 社会的なオジサン、オバサン

地域の中に自分を受け止めてくれる親とは異なる大人、社会的オジサン、オバサンがいることは子どもに居場所を与える。

地域の中に、親とは違った立場で自分を肯定的に受け止めてくれる人 社会的オジサン・オバサンがいることは子どもの日常を楽しくするだけでなく、さまざまな人間を知ることにより他者への信頼感の基礎を育てていくことができる。非行少年のケースを見ても地域の中にひとりでも子どものことをわかってくれるオジサ

ンやオバサンがいれば救われるケースもあるといわれる。おやじの会や子ども会、町内会などをとおして、子どもに「自分にも味方がいるのだ」というメッセージを送ってあげれば、何かあったときに子どもからシグナルを送ってくる。

【事例】神奈川県横浜市戸塚区「すぎのこおやじの会」

1990年前後から都市部を中心に、子育てを考え、子育てに参加しようとする父親たちの動きが活発になり「おやじの会」ができてきた。神奈川県横浜市戸塚区の「すぎのこおやじの会」がその一つの例である。「すぎのこおやじの会」では、活動を進める上であえて学校や家庭との連携を考えていない。なによりも学校に居場所のない子どもたちに地域で居場所を与えることをモットーとしている。「家庭との連携」という言葉も下手をすれば地域が家庭と協調して子どもを大人の監視下におく危険性をはらんでいる。したがって「親に告げ口をしない」ことが社会的オジサンたるものの最大の資格要件である。親に対して「秘密」を共有する関係が、社会的オジサンと子どもとの距離を縮める。

4 地域の教育力の活性化をすすめる媒介としてのモノと人

子どもを主役にするような舞台装置、教育力を活性化させる媒介としてのモノや仕掛人が重要である。

子どもとの人間関係を形成していくことが不可欠であるが、人間関係は簡単にできるわけではない。人間関係を形成する媒体としてモノや人が大きな意味を持っている。今回の調査結果から媒介となるモノとして「郷土芸能等の地域文化」「夜と食」「体を動かす共同作業」「いじめ、いじめられ体験」などが見られた。媒体は多様であるが、それをいかに利用していくかが重要なのである。またこうした子どもを主役にするような舞台の仕掛人の持つ役割は大きい。

①郷土芸能等の地域文化

地域の伝統的な芸能や文化を伝承しようとする活動が広く全国で行われている。またこれまではなかったような活動を生み出すことで地域

の見直しと、新たな文化の創造を目指そうとする試みもある。

【事例1】新潟県佐渡郡小倉子ども鬼太鼓

新潟県佐渡郡小倉地区は過疎化が進み、現在わずか10戸、小倉小学校は全校生徒15名である。郷土芸能である小倉子ども鬼太鼓は、全校生徒で取り組んでいる活動で、練習や発表会の中で教室の仲間や上級生という児童相互の交流や指導者（友だちのお父さん）や学校の担任以外の先生方との関わりが生まれる。発表会前には衣装の着付けを手伝う友だちの母親とも関わり、演技を参観してくれる人々の励ましや賞賛をもらい、緊張感や充実感、満足感等を体験していく。鬼太鼓の活動を通して多くの人々と接し、学校が出会いの場所になっている。



子ども鬼太鼓

【事例2】岩手県青年団体協議会「青少年ふるさと発見銀河鉄道」

岩手県青年団体協議会「青少年ふるさと発見銀河鉄道」はこれまでになかった活動を生み出し新たな文化の創造を目指そうとする試みの一つである。年齢の異なる子どもたちと青年団員によって構成された参加者が、岩手県の人なら誰もがアイデンティティを感じることができる「宮沢賢治」をテーマとして列車で県内を移動しながら、地域の文化に触れたり、交流したり、共同作業による創造活動を行った。

②「夜」と「食」を媒介とした関わり

子どもは「夜はわくわくする」という感性を持っており、「夜」は子ども達を特別に興奮させる力を持っている。また一緒に食べるという

体験が人の距離を縮める力がある。

【事例】島根県出雲市神門青年団「かんど知ってナイト探検ウォーク」

「夜はわくわくする」という子どもの感性を取り込んだ事業で、子どもたちだけでなく親も巻き込み、夜の町を14.4キロ歩く。ポイントごとにゲームやクイズが用意され、楽しみながらゴールを目指す。強がったり、怯えたり、笑ったりしながら歩き通すという体験は子どもたちに喜んで受け入れられ、主催者である青年団の若者たちは子どもたちから「尊敬される」気分を味わっている。

③体を使いながら共同で何かを作り上げる

スポーツや音楽のような表現方法を使いながら、1人ではできないことを成し遂げる作業も、一緒に作業することによって共通体験を得ることができ、その後の人間関係の深まりをもたらすきっかけとして有効である。

④いじめ、いじめられ体験

いじめという問題をきっかけに「子どもの声を聞こう」というネットワークが形成されている。また、青年団の活動の中では、青年達が自分の持ついじめ、いじめられ体験のコンプレックスから自由になる場として、青年団を地域の場所ととらえ、いじめ、いじめられ体験を子どもたちに接するときの「共感」として生かしている。

【事例】徳島県羽ノ浦青年団「バンド甲子園」

高校生バンド10組の出演と県内でいじめ問題について活動している先生たちのグループによる演劇を通じて、いじめについて参加者と共に考えようとした企画である。地域の青年団の中には「いじめ、いじめられ体験」を持っている者も多く、いじめられ体験の乏しい大人やどちらかといえば優等生として子ども時代を過ごした教師や教育関係者と異なり、特別の使命感を持たずに日常的な感覚で子どもに接し、子どもたちの内面の声を聞くという教育的な力が注目される。

⑤ 仕掛人

活動を進めていく上で大きな意味を持っている仕掛人も多様である。子どもについての問題意識から声をあげた母親や父親、学校を中心とした伝統文化の継承活動では児童数の減少や生活の変化に危機感を持った教師、あるいは地域の健全育成活動の推進や青年団活動の活性化を図っている行政担当者などさまざまな人が、さまざまな立場から考えていることが明らかになった。

5 地域の教育力を活性化させる活動組織

地域の教育力を活性化させる活動組織は、新しい活動主体だけでなくこれまでの旧来型、伝統型の組織をうまく生かしていくことが必要である。

活動組織は地域によって異なり、都市型地域では市民活動団体やボランティア活動団体、おやじの会など既存の組織ではなく新たに作られたものが多いのに対して、「地域型」地域では既存の組織が母体となっているものが多いという傾向が見られた。新しい活動主体だけでなくこれまでの旧来型、伝統型の組織をうまく生かしていくことも必要である。

【事例】PTA活動

山形県寒河江市醍醐小学校「日和田弥重郎花笠田植え踊り」

福島県伊達郡川俣町山木屋地区「たんぼスケートリンク」

東京都世田谷区「子どもの放課後を考える会」

PTA活動も学校後援会的組織として受けとめられ、保守的傾向が強クPTAの存在そのも



たんぼスケートリンク

のが問われているが、今回の調査で、地域の教育機能を活性化させるためにPTAの持つ意味が大きいことが明らかにされた。

都市である世田谷区においては母親たちの教育、文化、消費者問題、環境問題等、多くの問題関心から「子どもの放課後を考える会」をはじめとするさまざまなネットワークが形成されているが、このネットワーク形成において、PTAは出会いの場として重要な役割を果たしている。NGOの連携の構築に、PTAというさまざまな人々との関わりが貢献している。

一方「地域型」地域においては、PTAを母体とする親の協力体制の中で、親たちが親睦を深め子どもと深く関わっていくというあり方が、山形県寒河江市「日和田弥重郎花笠田植え踊り」、福島県伊達郡川俣山木屋地区の山間に「たんぼスケートリンク」をつくり「川俣スケートクラブ」を発足させた。テレビゲーム等が子どもの遊びの主流になり、自然体験の乏しい子どもが増加したことに対応した事業である。

学校とPTAのあり方も支配的なものから、人間と人間とのつながりを重視するネットワーク型へと変わりつつある。PTA離れが進んでいると言われているが、魅力的な活動をしていると人が集まってくる。人と人との関係が生き生きして楽しくなっていくことが大切である。

6 開かれた学校

家庭、学校、地域の連携を進める上で学校を開くことが効果的である。

学校は人々を社会や世界に開く窓であり、地域にある一つの組織という立場から、地域社会の崩壊とともに、新たな地域社会を創出する立場になっている。そこでは“学校を開いていく”ということが課題である。

学校の象徴として高い塀があるが、今は学校の塀を取り払い生涯学習としての機能も持つようになりつつある。

学校と地域との連携をするためには、学校側からはまず、建物の構造がひとつのカギとなる。空間は構造を規定するという側面からは学校、そしてその施設を有効に利用するためには、使う側の発想の転換が必要であり、クラスや学年を開いて、教室を超えた交流を実践する等、こ

れまでなかなか定着しなかったオープン・スクールやチームティーチングなどの展開が望まれる。また、地域住民とは、建物の共有ばかりでなく、人的交流を図っていくことが必要である。

こうした、開かれた学校経営のあり方が今後ますます進んでいくと考えられるが、学校が所属する地域には、自然条件、文化的伝統を背景にした差異があるので、地域性を考慮し、地域の状況に「最適化」することが望まれる。

【事例1】宮城県白石市白石第二小学校

白石市白石第2小学校は校門がなく、校地外園に並木を配する開放的な構造をとっている学校である。スクールゾーンと体育館・音楽室・プール等からなるパブリックゾーンに区別され、学校は街の生涯学習、防災拠点、集会拠点として重要な位置をも占めている。教室は、オープンスペースを兼ねる広い廊下とをガラス張りの引き戸によって仕切ることによって、教室の様子がよく見えるばかりでなく、引き戸を開放すればオープンスペースと一体になり、多様な学習活動が可能となっている。

【事例2】千葉市立打瀬小学校

千葉市立折瀬小学校でも、学校敷地を取り囲む塀もなければ校門もなく、体育館、コンピューター室、家庭科室等は、地域住民が生涯学習施設として利用しやすいように、建物の外側に配置されている。教室は外部がガラス面で覆われ、外からよく見え、廊下を仕切る壁がなく、ワークスペースと呼ばれる学習スペースに向かって開かれ、チームティーチング等の多様な学習活動が可能な構造となっている。

7 地域の人材の発掘と活用

地域に隠れている人材を発掘し、地域の中で生かしていくことが必要である。

地域には多様な資質や特技を持つ人が住んでいる。こうした資質を地域の教育力の中で生かしていくためにはボランティア活動を推進するとともに、隠れた人材を発掘し人材リストなどを作って活用していくことが求められる。

【事例】千葉市立打瀬小学校

学校の構造だけではなく、学校を地域に開くために打瀬小学校では、「P.I.C.&D」〔新しい学校づくりの旗印、Passion（情熱）、Imagination（想像）、Creation（創造）、Dream（夢）の頭文字をとったもの〕という学校だよりを在籍児童がいない家庭も含め、学区全戸に配布している。この学校だよりは、学校活動の内容を地域全体に知らせコミュニケーションをはかるとともに、地域住民の学校行事への参加や協力を要請する上で大きな役割を果たしている。この学校だよりで「打瀬小学校の子どもたちにしてあげられることはありませんか」と地域住民に呼びかけ、「地域の先生」による教育活動、音楽、スポーツ、陶芸等の技術を持つ地域住民を人材登録して、クラブ活動や生活科に学習などへの協力を依頼する、といった試みが行われている。

文部省では、使命感、得意分野、個性を持ち、いじめ、登校拒否など現場の課題に適切に対応できる力量ある教員養成を目的として、大学での教員養成カリキュラムを改善するとともに、社会人の活用のための特別非常勤講師及び特別免許状制度を改善することを改正の趣旨とする「教育職員免許状改正案」を今年3月国会に提出した。この中で、学校での社会人の活用の促進の中で、（1）特別非常勤講師制度の改善（第3条の2関係）として、専門的な知識及び技術を持つ者を学校教育に活用するために特別非常勤講師制度の改善の中で授与権者（都道府県教育委員会）の許可を授与権者への届け出に改めることが盛り込まれている。

8 他の団体とのネットワークと行政とのパートナーシップ

活動を広げていくためには他の団体や行政とのネットワークを作ることが効果的である。行政とはいかに対等な関係を作ることが課題となる。

これまで行政で行うことと民間で行うこととは分離していた。しかし、さまざまな問題を解決していくためには行政だけ、あるいは民間の団体やボランティアグループだけでは解決でき

ないということに気づきはじめた。

前述の「すぎのこおやじの会」は、なによりも「義務」や「お仕着せ」でなく、自分たちの楽しめること、やりたいことを一人ひとりの都合に合わせて行う柔軟さと自在さを重視し、これまでは地域の自治会組織や行政組織とはあえて距離を保ってきた。しかし自分たちが楽しくやっていくためには生活拠点である地域に目が向き、活動内容に自然環境問題、リサイクル運動、高齢者や障害者の暮らしなどが射程に入ってきている。まちづくりを考えていくためには専門家の知恵や技術も借り、他の市民団体や行政との関係を育てていかなければならない。「おやじの会」の持ち味である伸びやかな柔軟性を保持しつつ、いかに対等なパートナーシップを形成していくかが今後の課題になっている。

活動を広げていくためには、他の団体や行政とのネットワークを作ることが効果的である。個々の団体ではできることに限りがある。何でもできるわけではないということに自覚し“持てない荷物はひとりで持たない。みんなで持とう”という意識を持ってお互いに支え合うネットワーク形成が求められる。

【事例1】せたがやチャイルドライン

行政とのパートナーシップがうまくとれている事例として、世田谷区の「せたがやチャイルドライン」が挙げられる。社会福祉法人世田谷ボランティア協会が、世田谷区の職員やボランティア団体を構成員とする「せたがやチャイルドラインプロジェクト企画運営委員会」を発足させ、平成10年3月8日から21日まで24時間電話相談「せたがやチャイルドライン」を実施した。平成8年1月、官民で子どもに対応している個々の力を結集しようとした「世田谷こどもいのちのネットワーク」が発足した。こうして集まった地域の子どもの問題に取り組んでいるさまざまなボランティアグループや市民団体と、世田谷区・世田谷区教育委員会と協力して「いじめ」をテーマに3回のシンポジウムを開催した。シンポジウムという実践を通して子ども自身が24時間電話による相談ができるイギリスの「チャイルドライン」を知るところになり、日本での実現を願って運営委員会で設立のための提言

をまとめた。そして教育委員会委託を受け、24時間電話相談「チャイルドライン」を実験的に実施しその実態、課題、問題点等を明らかにする「子どもを対象として相談業務のあり方検討調査」事業が、文部省の「地域活性化センター推進事業」から助成を受け実施することとなった。実施に当たって必要となる多くのスタッフは、「世田谷こどもいのちのネットワーク」の関係者が中心となっている。

【事例2】東京都練馬区青少年育成地区委員会

昭和28年に制定された「青少年問題審議会及び地方青少年問題協議会設置法」に基づいて発足した「地区委員会」が、昭和49年から「練馬区青少年地区委員会」と改称され、地域の教育力の活性化に向けて各地域の住民独自の活動となった。現在練馬区全部の17の出張所の所管区域を単位として17の地区委員会が組織され、各事務局は各出張所内のごく一部を利用してもらっている。練馬区から経費の援助を受けているが練馬区全体で1,900人の地区委員がおり、全員がボランティアとして無償で活動している。活動や事業に参加する費用は受益者負担となっている。地区委員の年齢は30から70代で、職業も多種多様であるが大部分の人が生きがいを持って楽しく活動している。最近の傾向として、働き盛りの男性委員の増加に伴い、地域で行われる活動や事業に参加する父親が増えている。

各地区委員会の共通した活動目標は、青少年の個性豊かな人間づくり 青少年のための環境づくり 青少年の体力づくり 青少年の仲間づくり等であり、その活動内容は、育成活動（スポーツ・レクリエーション・文化事業・清掃活動等） 非行防止活動（地域環境浄化、地域パトロール、講演会等） 健やか運動（「健やか運動協力店」養成活動、子どもたちには帰宅時間・大人には家庭のしつけや一声かけるきっかけの「タベの音楽」、ポルノ雑誌等やタバコ自動販売機実態調査等）であるが、実際の活動や事業は各地区委員会の裁量に任されている。

10 社会の意識の改革

仕事一辺倒で家庭や地域のことを省みようとならない企業中心の価値観は、心の豊かさを求める機運や男女共同参画社会の実現に向けて見直しが迫られている。

子どもたちに豊かな人間関係を与えるためには、地域のオジサン・オバサンを意図的に作っていくことの重要性は前述したとおりである。そのためにはまず、「我が子だけがよければいい」という意識を変えていくこと、自分の子どもが大切なら子どもが育っている地域の子どもも大切にしよう、という意識変革が求められる。

また、子どもたちに豊かな人間関係を与えるためには、まず大人自身の人間関係の豊さが求められる。特に朝から晩まで働き、休日までも仕事や会社のつながりで行動している男性自身の人間関係が豊かにならなければならない。

これまでの企業中心だった男性も、父親不在がもたらす子どもの成長をめぐる問題の顕在化、休日の増加や労働時間の短縮、定年退職後の男性の居場所づくりの必要性の認識、従業員の生活を丸ごと保障していた企業の変容、市民活動やボランティア活動の参加機運の高まりを背景として変わり始めている。

さらに、男女共同参画社会の実現に向けて、男女が共に職業生活と家庭生活との両立を図ることができ、また地域社会にも参画することができるようにする、という観点に立ってその基礎的条件である労働時間の短縮を図ることが重要である。特にこれまで家庭や地域への参画の少なかった男性の家庭・地域生活への積極的な参画の促進を図ることが必要とされている。

前述のすぎのこおやじの会でも、活動の継続のカギとなっているのは、企業人としての肩書ははずし おやじ 自身が個人として楽しむこと、親どうしが群がることの楽しさを知ることであるという。これまで支配的であった仕事達成、過剰な業績主義の価値観を崩し、多面性を持った人間を多面的に評価するという新しい社会的価値の創造が求められる。



マーシャル諸島の女性の現状

「海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業」
提出カントリーレポートから

国立婦人教育会館では、1989年度から毎年「海外婦人教育情報専門家情報処理研修事業」を実施してきました。この事業の目的は、アジア太平洋地域の婦人教育、女性情報の専門家を招致し、会館のこれまでの女性情報システム構築等の経験を活かして、女性問題の意識啓発に関する情報処理技術の研修を行うもので、本研修を通して、アジア太平洋地域の女性問題に関して相互理解を深め、域内の女性情報ネットワークの促進を図ろうとするものです。1998年度までに28ヶ国、46名の方をお迎えしました。

研修生は参加に当たって、自国の女性問題に関するカントリーレポートの提出が求められます。これらのレポートは、各国の女性を取り巻く最近の状況を知る為の情報源として、会館の婦人教育情報センターに保管されております。今回は今年度のレポートの中からマーシャル諸島の女性の現状について御紹介いたします。

アネラ・ピリー・ボアズ

(マーシャル諸島政府開発事務局次長)

はじめに

アジア・太平洋地域の代表の方々にお会いし、マーシャル諸島の女性問題とその現状について概観を報告できることをうれしく思う。また、アジア・太平洋地域のみならず、他の近隣諸国の皆様とご一緒できたのは誠に喜ばしい。私たちは、アジア・太平洋地域レベルで開催するこの「女性問題に関する情報処理研修事業」で学び、その成果を積極的に今後の女性支援のプログラムに役立てたいとの決意をもってここに臨んでいる。このような機会を与えてくださった国立婦人教育会館(NWEC)に感謝する。

まず、はじめに、ラルフ・ウォルドー・エマソンによる女性の定義を紹介する。彼によると、「文明社会の条件は、女性が社会に対して影響力を持つことである。」

また、1851年のオハイオ州アクロンでの女性人権会議で、ソジャーナ・トゥルースが述べた

言葉も紹介したい。彼女は聴衆の中にいた牧師の言葉を受けてこう言った。「(黒い服を着たあの男性は言う)女性は男性と同じ権利を持つことはできない、と。なぜなら、キリストは女性ではなかったから、と。それでは、キリストはどのようにして生まれてきたのか。神とひとりの女性からだ。男性は彼とは何の関係もないのだ。」

トゥルースはさらに続けた。「神が創り賜った最初の女性が、ひとりで世の中を覆す力を持っていたとすれば、われわれ女性が力を合わせて、世界を正常な形に戻すことは可能である！」

私は、この二人を称えたいと思う。なぜなら、彼らの努力が、この団結力と私たち自身を保護する支援のきっかけをつくり、女性に内なる力を身につけることを可能にしたからだ。そして、あらゆる職業の女性が、世界中で、政治的、社会的、経済的障壁を克服することができるようになったのである。

マーシャル諸島の地理的特徴

まず、マーシャル諸島の地理的な特徴を簡単

に説明しよう。マーシャル諸島共和国は多数の小島からなる29の環礁と5つの島で成り立っている。太平洋中部、北緯4度から14度、東経260度から173度に位置している。環礁や諸島は、2列に平行する鎖状に並んでいて、ラタック（日の出）列島とラリック（日の入り）列島として知られている。共和国の諸島は、およそ1225におよび、75万平方マイルの海に散在している。国土面積は、70平方マイル（181平方キロメートル）である。平均高度は、海拔7フィート（2メートル）ちょうど、東京の南方に位置している。

諸島は、勇敢な船乗りがカヌーで航海してきて、紀元前に人の移住がなされたと考えられている。1788年には、諸島はマーシャル、ギルバート両船長によって再発見され、後にマーシャル船長にちなんで諸島の名が付けられた。

歴史

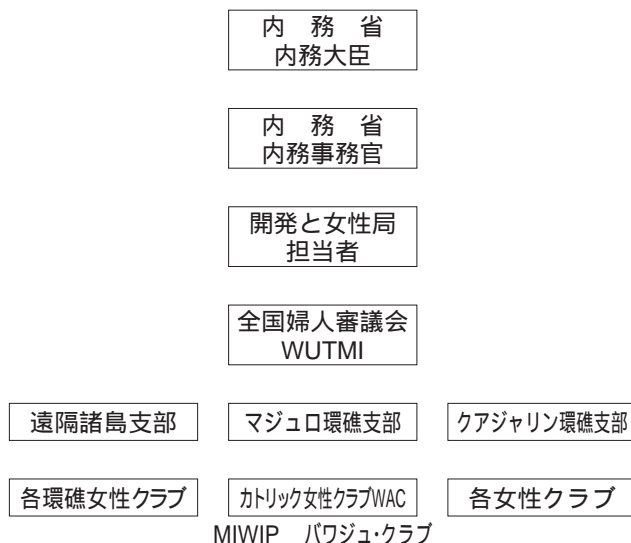
1800年代後半、ヨーロッパの貿易商たちがマーシャル諸島に進出してきて、環礁のひとつ（ヤルト環礁）に、店を構えた。1855年にはドイツが諸島を併合し、その保護領となった。ドイツは第1次世界大戦が終結するまで、29年間に渡り諸島を統治した。その後、国際連盟の委任統治領となり、日本が諸島を統治することになった。第2次世界大戦の終結により、諸島の統治はアメリカが引き継いだ。

アメリカは国連の信託統治協定の下に、40年にわたり、諸島を統治した。マーシャル諸島の独立は、最終的に2つの段階を経て実現した。自治政府が1979年5月1日に樹立し、1986年には自由連合協定が発効された。アメリカとの友好関係を保ちつつ、マーシャル諸島共和国としての独立国家となったのである。

マーシャル諸島の国家機構の役割

マーシャル諸島では、遠隔諸島の数は数百にも上るが、そうした島々にも地域女性団体が存在する。これらの団体は、親団体や政府の開発と女性局（Women in Development Office）の支援に大きく依存している。こうした観点から、既存の女性団体の親団体や全国女性審議会（WUTMI）そして女性のための国内本部機構である内務省の開発と女性局の強化のため、たゆまない努力が続けられている。

組織図



マーシャル諸島の政府の「閣内女性政策」はとりわけ女性の健康と教育に重点をおいている。この政策は、現在の女性健康管理プログラムの改善を目指している。特に、適正な栄養摂取や健康管理に対する意識を高めるプログラムや、地域特有の栄養価の高い食物を遠隔諸島から都市部に運搬するプログラムの改善に努めている。さらにこの政策は、人口教育の改善により家族計画を強化し、プログラムへの、より多くの男性の参加を求めている。また、女性の教育面での向上も目指している。女兒および成人女性が職業選択の自由を持つためには、質のよい教育が重要であるという認識を女子自身、そして親にも高めていく。特に、この政策では、女子学生に対する自己主張訓練や親の意識変革プログラム、及び、女子を対象としたキャリア・カウンセリングの向上を提案している。さらに、職業訓練機関と緊密に協力体制をとることで、女子および成人女性に職業の非伝統的分野への進出を推進している。女性の健康と教育面での向上は、女性がより積極的に経済活動に参画していく上で一助となる。経済活動は家族の生活を向上させるために必要なのである。

マーシャル諸島の女性の活躍は小規模事業では目立つが、より大規模でめざましい活躍をしてもらうためには、多くの課題が残されている。政府の「国内女性政策」はマーシャル諸島全域の女性組織を対象に、事業開発や経営に関する

研修会を提案している。また、この政策は女性支援を目的とし、小規模事業を起こす人に貸し付けを行ったり、より大きな事業についてはマーシャル諸島開発銀行（MIDB）のような大規模な金融機関から貸付を受けられるようになっている。

しかし、女性の健康と教育面での向上や、女性が家族のための所得を得るための努力に対して、地域社会や世帯主である男性のさらなる支援が必要である。地域社会がジェンダーや家庭における女性問題への認識を高めていかなければならないのである。この点について、女性政策は女性と男性の役割や家族の価値に対する意識啓発セミナーを地域ぐるみで行うよう提案しており、このような意識啓発のために教養事業やメディア・事業の開発も行っている。また、この政策は女性が土地や法的権利に対する意識を高めることも目的としている。例えば、土地利用に対する意思決定権、養育権、暴力から自身を守る権利に対する意識を高めることで、女性はさらに自信を持って、自らの経済生活を向上できるのである。

同様に、経済活動やあらゆる国の開発計画に女性が参画するためには、制度、機関、社会団体などの支援も必要である。「開発と女性局」では、「国内女性政策」の実践に焦点を当てた実践活動計画の開発を行ってきた。この政策は、あらゆる分野における女性の地位を示すジェンダーのデータベース化も提言している。女性の健康、教育、雇用、職業などのデータや統計を定期的に収集することによって、政府機関は女性のニーズに細かく対応できるプログラムを開発することが可能になる。

したがって、マーシャル諸島における女性の地位向上戦略とは、具体的に、健康、教育、文化、法的権利、政治的エンパワーメント、事業における女性のニーズに対応するプロジェクトやプログラムのことである。マーシャル諸島では、妊産婦や子どもの健康、栄養学、介護などに焦点を当てた健康プログラムを進めている。「国内女性政策」は、このようなプログラムの効率と効果についての評価を行い、向上を図っている。さらに女性のための職業訓練や、女性を受益者とした事業開発事業やプロジェクトなどが提案されている。このような事業やプロジ

ェクトは、健康や所得創出など女性の早急なニーズに応えるために重要である。

同じように重要なのは、ジェンダーに基づく偏見を取り除き男女共同参画社会を目指す事業やプロジェクトである。これらには、職業訓練、教育プロジェクト、農業、漁業活動が含まれている。こうした事業は、すぐに女性の地位向上につながるが、少なくとも男女に均等の機会を与える。例えば、女性も男性のように幅広く、求人面において需要が高くなっているワープロ、建築、電気などの技術訓練を受ける機会が与えられる。女性は男性と同じように、農業普及員としての技術、あるいは家庭菜園の技術を学ぶことができる。さらに、家庭責任は男女平等に分かち合うものである、という認識が高まってきている。このような傾向は、すぐさま男女の姿勢を変えるものではないが、少なくとも、家庭の価値や家族の役割、そして社会生活の重要性に対する意識を高めるであろう。

女性への情報提供

情報は、あらゆる手段で女性に提供されている。政府はV7ABというラジオ局を所有しており、女性のための番組（「女性の時間」）を週に2回放送している。また、毎日、女性の活動に関するお知らせや臨時放送も流している。番組の女性司会者は、「開発と女性局」のスタッフであるが、NGOからの支援も受けている。この番組は電話やファックス、テレビのない離れた環礁に住む女性には、重要な情報源となっている。電話やファックスが通じているエベイエ環礁では、情報がそれらを通して伝達されている。週間新聞「マーシャル諸島ジャーナル」も、女性への情報提供に有効な手段となっている。そして、女性問題や男女平等に関して一般の人を啓蒙する役目も果たしている。マーシャル諸島の首都マジュロでは、週間新聞、テレビ、ラジオ番組、ファックス、インターネット・メール、インターネット・ニュース、電話などが女性への情報提供に役立っている。

現在、私が光栄にも次長を務めてるマーシャル諸島女性政策局（MIWIP）の局員は「全国移動チーム」として、遠隔諸島にも出向いている。これらのチームは、健康管理、農業、栄養学、青少年教育事業、スポーツ、ジェンダー

の問題についての意識変革やセミナーを行っており、それらは諸島の男女双方を対象にしている。研修会を開いて情報の提供を行ったり、女性の厳しい現実を認識してもらうのに役立っている。このような努力が一般の人の意識や思考に変化をもたらすことが望まれる。

女性の地位

現在、マーシャル諸島では、経済的、政治的役割を担う女性が増えてきている。政府や産業界に進出している女性はたくさんいる。エヴリン・コノウは、立法府の初の女性代議員であり、初の女性文部大臣でもあった。アマトライン・エリザベス・カプアは、マジュロ地方自治政府

の初の女性市長であり、現在初の女性大使として日本に赴任している。初の女性会計監査長官となったのは、ジャンマリー・トニクウェ。そして、ロザリー・コノウは、初の女性弁護士である。女医は二人いる。また、女性は政府の高官としても活躍しているし、数多くの女性がマーシャル諸島の経済成長に貢献している。

マーシャル諸島では女性に対する暴力は非常に少ない。それは、女性が土地の権利について意思決定権を持つという慣習が根強くあるからである。つまり、土地の権利と一族は女性(母)から受け継ぐもの、という慣習である。私は、マーシャル諸島における女性の地位について女性は男性と平等な立場にある、と考える。

研修風景



コンピュータの画面に見入る



ソフトバレーボール大会を終えて
(会館職員とのレクリエーション)



会館の活動について説明を受ける



情報処理演習の講師とともに

婦人教育情報センターより

平成8年度女性学関連科目
データベースを公開しました

1. 本年9月10日に女性学データベースを会館のホームページに公開しました。前回まではコマンド方式での検索でしたが、今回公開したデータベースでは項目をクリックすることによって簡単に検索できるようになりました。検索項目はa. 講師名、b. 実施大学名、c. 講座及び講師の主題や専門分野の3つです。
2. 女性学データベースは、女性学関連分野の調査・研究に資することと学習機会の拡充を図ることを目的として、今回は平成2年度、平成5年度に続いて平成8年度分を平成9年に調査し、高等教育機関における女性学関連科目データベースとして公開したものです。

女性学関連科目データベースの概要

- 調査期間** 平成9年4月～6月
- 対象機関** 全国の大学・短期大学等の1,237大学、及び前回の調査で女性学を実施している旨の回答の得られた研究者410名
- 対象科目** 全国の大学・短期大学等の高等教育機関において女性学または女性学の視点を取り入れた科目（講座）
- 対象年度** 平成8年度
- データ件数** 786件
- 調査項目** 開設年、科目名、テーマ名、テーマ分野、実施大学名称・所在地、対象学部、設置者区分、4年制・短大の区分、担当者氏名・役職・専門分野・所属機関名、科目内容、テーマ

選択理由、講義の進め方、開講時期、科目種別、単位数、指定学年、取得資格、成績評価、受講者数、公開の有無、聴講料、聴講資格、聴講選考方法、受講後の意義変化、学内への影響、今後の課題

検索方法

講師名で探す

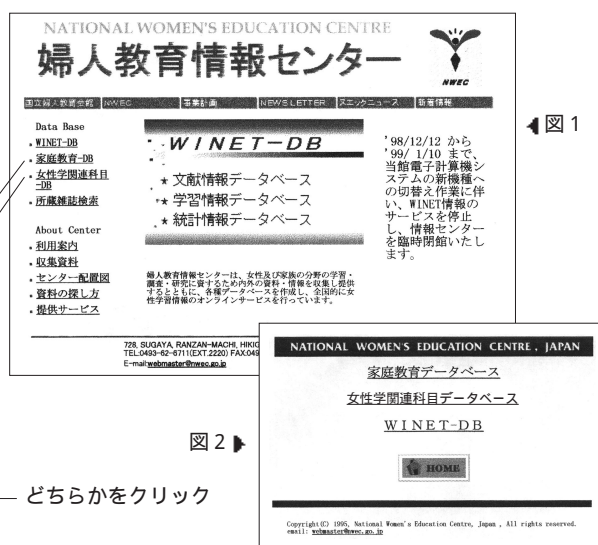
あいいうお順に並んだ講師名から選ぶことができます。

講座及び講師の主題や専門分野で探す

40種類に分類された講座内容から求めるものを選ぶことができます。

実施大学名で探す

実施している大学を、都道府県、国公私立、大学名から選ぶことができます。



どちらかをクリック

会館HP (<http://www.nwec.go.jp>) のトップページの「データベース」をクリック 図2へ
婦人教育情報センターのページからも行けます。図1

設置形態別開講大学・短期大学数及び科目数

設置形態		平成4年度							平成8年度						
		全国の大学・短大数		開講大学・短大数			科目数		全国の大学・短大数		開講大学・短大数			科目数	
		女子大	共学	計	女子大	共学	計	女子大	共学	計	女子大	共学	計		
国立	大学	98	2	35	37	9	70	79	99	2	36	38	13	89	102
	短大	39	0	1	1	0	1	1	25	0	4	4	0	4	4
公立	大学	41	5	4	9	11	5	16	61	2	6	8	5	12	17
	短大	53	4	10	14	13	11	24	60	5	9	14	10	17	27
私立	大学	384	38	50	88	117	78	195	444	50	81	131	159	202	361
	短大	499	98	21	119	167	30	197	502	115	40	155	209	59	268
放送大学		1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	7	7
計		1,115	147	121	268	317	195	512	1,192	174	177	351	396	390	786

調査結果の概要

平成8年度女性学関連科目の開講大学・短期大学数は351校となっている(表)。これは全大学・短期大学の29.4%にあたり、平成4年度の24.0%より5.4ポイント上昇している。

設置形態別に見た場合、私立大学の増加が著しく、平成4年度の88大学(22.9%)から131大学(29.5%)へと43大学、比率で6.6ポイント上昇している。

女性統計をグラフにしました

WINET-DBのひとつに「統計情報」がありますが、今回、この統計情報から意識調査に関するものを特に集めて、インターネット上で公開することになりました。

WINET-DBではディスプレイ上での制約などもあり、簡略表ベースですが、今回インターネット上で公開するにあたってグラフ化を試みました。会館のホームページ(<http://www.nwec.go.jp>)のデータベース 家庭教育データベース 統計・調査 女性統計(意識調査)を順にクリックし、一覧表の中から必要なグラフ名をクリックして下さい。なお、グラフ自体をクリックすると拡大されて表示されます(右図参照)。

種別：統計・調査

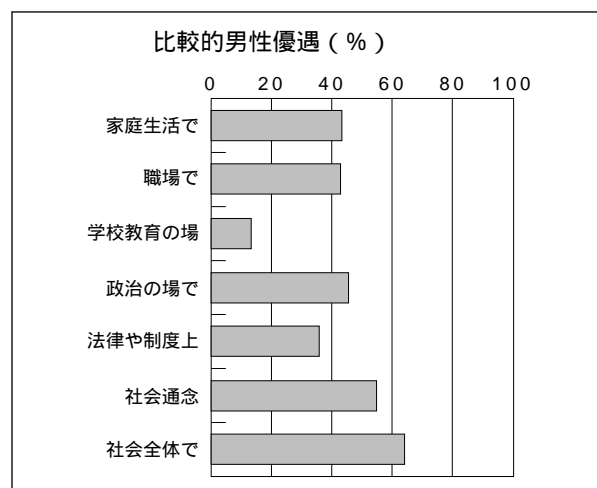
カテゴリ：

資料名：女性統計(意識調査) /

1 女性統計(意識調査)

1.1.1 120010 各分野での男女の地位の平等についての考え(1995)

(男女共同参画に関する世論調査) 比較的男性優遇



女性・家族関係雑誌記事インデックス

当会館婦人教育情報センター所蔵の和雑誌のうち、1997年前半にデータベース化された記事・論文の中から、女性の学習・研究に役立つものを雑誌名の五十音順に掲載しています。

WINET（情報検索サービス）では全データが検索できますので、あわせてご利用下さい。

凡例

雑誌名 [巻号] (発行年月日)

特集タイトル

No. 記事タイトル / 執筆者名 (ページ)

愛知教育大学研究報告.教育科学 (1997.03)

1. 育児における父親の役割に関する調査研究(1)：単純集計と両親の比較をとおして / 恒次欽也, 川井尚, 庄司順一 (p.105-113)

あごら [227] (1997.03)

特集：なぜ今「自賛史観」か

2. もはや黙っているべきではない：なぜ私は「憂慮する朝鮮人・アピール」への賛同を呼びかけるのか / 徐京植 (p.4-15)
3. 「自由主義史観研究会」「新しい歴史教科書をつくる会」等の動きを憂慮する在日朝鮮人のアピール (p.16-18)
4. 韓国市民からの抗議：日本の国会議員、学者達および極右勢力の日本教科書「慰安婦」内容削除活動は、即時中断されねばならない!! (p.19-20)
5. 右派勢力の教科書攻撃に関する略年表 (p.21-40)
6. 資料1 「従軍慰安婦」記述削除要求関係：緊急アピール 中学教科書から「従軍慰安婦」の記述の削除を要求する / 自由主義史観研究会 (p.41-49)
7. 資料1 「従軍慰安婦」記述削除要求関係：「新しい歴史教科書をつくる会」創設にあたっての声明 / 阿川佐和子[ほか] (p.49-50)
8. 資料2 自治体の決議と反論：岡山県議会で採択された陳情 (p.51-59)
9. 資料3 月刊「SAPIO」に対する福岡県市民団体の申し入れと回答：「新ゴーマニズム宣言」作者、小林よしのりさんへの抗議と申し入れ書 (p.60-65)
10. 資料4 インターネットで流された「教科書は正デモ」のお知らせ(抜粋)：「Yoshirin WATCH」 (p.66-67)
11. 資料5 日本教育会熊本支部による藤岡信勝氏講演会に対する市民の抗議行動：平成八年度 日本教育会熊本支部講演会のご案内 (p.70-76)
12. 資料6 長崎県西彼杵郡琴海町議会に地元右翼団体が出した請願書と市民の抗議行動：中学校歴史教科書

の是正を求める請願 (p.77-80)

13. 資料7 女性団体による「新しい歴史教科書をつくる会」への抗議書 (p.80-81)
14. 朝まで生テレビ：「従軍慰安婦問題と歴史教育」 / 西尾幹二[ほか] (p.82-95)

あごら [228] (1997.03)

特集：「わたしの声」を国会に

15. 「女性問題」への公約を訊く：立候補者への公開質問状：小選挙区比例代表並立制の衆議院選挙と地域での取り組みから / 国広陽子 (p.10-21)
16. やったぞゼネスト仮装行列！ / 佐藤志津 (p.26-28)
17. 「女の声」をひびかせよう！3.3のゼネストを呼びかけた山崎久民さん / 斎藤千代 (p.29-30)

あごら [229] (1997.05)

特集：なぜ今「自賛史観」か 2

18. シンポジウム：今こそ「考える歴史教育」を：「自賛」「自虐」史観を考える / 井上澄夫[ほか] (p.4-60)
19. 中学校の歴史教科書の中の「従軍慰安婦」 (p.65-79)

新しい家族 [30] (1997.05)

20. 国際養子縁組の新たな実践：ISS英国セミナーに参加して / 平田美智子 (p.49-54)
21. 幻の1950年児童福祉法全面改正 / 丹野喜久子 (p.60-76)
22. 養子縁組と里親委託の観点からみた児童福祉法改正の提言をめぐって / 養子と里親を考える会法改正検討プロジェクトチーム[ほか] (p.77-90)

岩手県立盛岡短期大学研究報告.生活科学・保育・共通編 [50] (1997.03)

23. 高齢者の食生活に関する研究(第3報)：岩手町に居住する独居老人のホームヘルパー派遣有無別検討 / 齊藤憲, 安藤貞雄, 斎藤修 (p.33-49)

江戸川女子短期大学紀要 [12] (1997.03)

24. イギリスにおける児童法と教育法の関係に関する一考察：ニーズ規定と行政の連携を中心として / 宮崎孝治 (p.74-84)

大阪教育大学紀要 4・教育科学 [45-2] (1997.02)

25. 女子「野球」に関する史的考察(2)日本女子野球史 / 花谷達次, 入口豊, 太田順康 (p.289-302)
 26. 児童期の身心発達に関する研究：保健室利用児童を中心に / 船越正康[ほか] (p.303-315)
 27. 看護婦の職業選択の理由とIdentityの関連について / 守本とも子[ほか] (p.327-340)

大阪樟蔭女子大学論集 [34] (1997.03)

28. 1996年若者にみる流行 / 北尾和信, 日下英子, 杉田慶子 (p.177-189)
 29. 「イギリスの幼児教育の発達」(5) / 大橋岑吉 (p.203-214)

大妻女子大学紀要 家政系 [33] (1997.03)

30. 女子大生の栄養摂取と生活時間調査：喫食回数と栄養摂取量・健康状況のかかわり / 村田輝子[ほか] (p.1-11)
 31. タイ王国北部における食生活調査：主婦の生活時間と消費エネルギー / 上部光子 (p.13-24)
 32. 男女共同参画社会実現への一考察：田無市における女性問題市民意識調査結果をもとに / 伊藤わらび (p.191-224)

大原社会問題研究所雑誌 [459] (1997.02)

特集：今、なぜ家内労働か？

33. ILOにおける審議をめぐって / 荒竜夫 (p.3-11)
 34. 労働者の立場から / 沖田信夫 (p.12-15)
 35. 使用者の立場から / 橋本一美 (p.16-19)
 36. ILO基準と日本の家内労働・新しい就業 / 諏訪康雄 (p.20-27)
 37. パートタイム労働の基幹労働力化の背景と方向 / 横山正博 (p.26-42)

大原社会問題研究所雑誌 [461] (1997.04)

特集：社会福祉システムと在宅介護

38. 講演：介護保険を展望した保健・医療・福祉の連携システムのあり方 / 樋口恵子 (p.1-11)
 39. 在宅介護の現状と課題 / 山田美和子 (p.12-27)
 40. 電産賃金体系における「年齢」と「家族」：ジェンダー視点からの分析 / 山田和代 (p.28-45)

大原社会問題研究所雑誌 [462] (1997.05)

41. 女性請負型テレワークの実態と課題：家内労働及びパート労働との比較検討 / 神谷隆之 (p.16-29)

大原社会問題研究所雑誌 [463] (1997.06)

特集：アジア諸国の労働問題 (1)

42. 強い宗教は労務管理の妨げとなるか：インドのU.P.州クールジャにおける工場調査から / 清川雪彦 (p.3-21)

小田原女子短期大学研究紀要 [27] (1997.03)

43. 保育所・保育者と家庭との連携に関する研究 / 増田まゆみ[ほか] (p.19-52)
 44. 児童虐待 1：児童への攻撃 / 市川隆一郎 (p.59-69)
 45. 女子学生における体力と食事に関する一考察 / 荒木美那子, 小林有子 (p.81-90)

女たちの21世紀 [10] (1997.03)

特集：メディアと女性

46. ゴーマン史観に女たちの反論 / 金富子[ほか] (p.3-10)
 47. 保守派女性陣の言葉の暴力 被害女性を三たび傷つける：櫻井よしこ、上坂冬子、曾野綾子らはどんな発言をしているのか / 松井やより (p.11-14)
 48. メディアの慰安婦報道を斬る：テレビ 右翼からの圧力が強まる中で / 池田恵理子 (p.15-18)
 49. メディアの慰安婦報道を斬る：新聞 男性中心・自民族中心主義が潜む / 金富子 (p.19-22)
 50. 中島みちはマレーシア住民虐殺を否定するのか：「日中戦争いまだ終わらず」批判 / 高嶋伸欣 (p.23-24)
 51. 拝啓 元「皇軍慰安婦」を侮辱する藤岡信勝様へ / 木村公一 (p.25-27)
 52. 民法改正に吹く逆風：右からの夫婦別姓反対論 / 赤石千衣子 (p.28)
 53. 憂慮すべき「観客」たち / 徐京植 (p.29-30)
 54. 岡山のヒジョーシキに反抗して：岡山県議会の「慰安婦」問題教科書記述削除を求める請願を巡る動き / 市場恵子 (p.31-33)
 55. 特別インタビュー：柴田鉄治元朝日新聞論説委員大いに語る：ジャーナリズムは危険な方向に向かっていく：論調は朝日・毎日対読売・産経に2極分化権力チェックという原点を守る (p.34-37)
 56. 男性たちの直言：週刊誌の反フェミニズム・女たたき / 亀井淳 (p.39)
 57. 男性たちの直言：小生が「慰安婦」問題に関わるのは / 長沼節夫 (p.40)
 58. 男性たちの直言：身体にしみついた困難な営為の中で / 諸橋泰樹 (p.41)
 59. 男性たちの直言：「左右色分け」の落とし穴 / 駄場裕

- 司 (p.42)
60. ドイツから見た日本1: 歴史認識のない国・日本: 梶村太郎氏大いに語る / 池田恵美子 (p.43-45)
61. ドイツから見た日本2: ベルリン発: 「慰安婦」支援運動を通して見たドイツのメディア / イエミン恵子[ほか] (p.46-50)
62. 万歳史観の略年表: (1994年から1997年2月16日まで) / 井上澄夫 (p.51-52)
63. マスメディア報道のジェンダーバイアス / 村松泰子 (p.53-56)
64. 北京世界女性会議行動綱領: J・女性とメディア (p.57-58)
65. 「メディアと女性」自主調査: 新聞テレビで働く女性たち24人を訪ねて: 新聞: 弱者の立場に立つ女性記者たち従来の価値観と異なる「女性の視点」を / アジア女性資料センター女性ジャーナリスト講座受講生, 松井やより (p.59-63)
66. 「メディアと女性」自主調査: 新聞テレビで働く女性たち24人を訪ねて: テレビ: 視聴者は番組への要望を伝えよう制作者にジェンダートレーニングを / 橋本佳子[ほか] (p.63-66)
67. 地方で活躍する女性記者たち: 海外特派員は何を報道しているか: 国際報道に女性問題や暮らしのニュースが少ないわけ / 竹信三恵子 (p.67)
68. 地方で活躍する女性記者たち: 「言わなきゃ分からないよね」 / 高橋直子 (p.68)
69. 地方で活躍する女性記者たち: 地方紙で働く記者として / 川村史子 (p.69)
70. 地方で活躍する女性記者たち: 女性記者として23年 / 山城紀子 (p.70)
71. 地方で活躍する女性記者たち: 体験的メディア雑感 / 砂古口早苗 (p.71)
72. メディア・ウォッチ: 性差別表現に挑む富山の女性たち / 斉藤正美 (p.72-73)
73. メディア・ウォッチ: メディア変革にコミュニケーションネットワークを / 加藤春恵子 (p.74)
74. メディア・ウォッチ: ポルノ状況に批判の声を挙げよう! / 井上輝子 (p.75)
75. メディア・ウォッチ: 「従軍慰安婦」問題は女性の人権を機軸に / 西野瑠美子 (p.76)
76. メディア・ウォッチ: メディアの中の女性と医療: 子宮筋腫・内膜症体験者の会「たんぼぼ」 / 佐藤(佐久間)りか (p.77-78)
77. 女性アーティストとメディア: 「ポリティカル・アート」と美術批評 / 嶋田美子 (p.79-80)
78. 女性アーティストとメディア: 日本のメディアはなぜ画家富山妙子を黙殺するのか: 植民地支配と男中心文化の間を打つがゆえに? / 松井やより (p.81)
79. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 女たちの情報紙: ふえみん / 牧田真由美 (p.82-83)
80. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 女性ニュース / 関千枝子 (p.83-84)
81. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 「女のしんぶん」 / 高橋久美子 (p.84-85)
82. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 女の本の情報誌「ウィメンズブックス」と共に / 中西豊子 (p.85-86)
83. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 東ティモール支援運動とパソコン通信 / 古沢希代子 (p.86-87)
84. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 草の根FAX利用大作戦「女たちの緊急アピール」の拡げ方 / 山崎公江 (p.88)
85. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: ビデオで伝える女たちの姿: 「女たちが創るもう一つのフィリピン2000」を制作して / 小竹弘子 (p.89)
86. 女たちがつくるオルタナティブ・メディア: 情報アクセス講座講師として、女性と情報について思うこと / 青木玲子 (p.90)
87. アジアの女性とメディア: メディアの限界に迫り、可能性を追求する / マリアニータ・ピラリーバ (p.91)
88. アジアの女性とメディア: まず意識改革を! / リナ・ディビット (p.92)
89. アジアの女性とメディア: 私たちのためのメディアとは? / アシャリ・バルマ (p.93)
90. アジアの女性とメディア: ニュースを報道したために懲役6年 / 高瑜 (p.96-97)
91. イスラームと女性 2 / 中原道子 (p.98)
-
- 解放教育 [27-1] (1997.01)
- 特集: 今、解放教育に求められているもの
92. 男女平等教育のあり方: 「男女平等教育の在り方に関する研究」について / 桑原加代子 (p.26-28)
93. 資料: 「男女平等教育のあり方に関する研究」(大阪府教育センター・平成七年三月)より (p.29-44)
-
- 香川大学教育学部研究報告 第1部 [99] (1997.01)
94. 野上弥生子訳「ギリシア・ローマ神話」と「古代ギリシア祭文」 / 田村道美 (p.1-35)
95. 野上弥生子と「世界名作大観」(十一): 「沙翁物語」 / 田村道美 (p.37-62)
96. 野上弥生子と「近代劇全集」(3): 「別れも愉し」及び「楡の木蔭の慾望」 / 田村道美 (p.63-80)
-
- 香川大学教育学部研究報告 第1部 [100] (1997.03)
97. 野上弥生子とウィリアム・クーパー: 「森」における「ロングマンの英詩」について / 田村道美 (p.1-23)
98. 野上弥生子と「世界名作大観」(十二): 「シャグパットの毛剃」 / 田村道美 (p.25-56)

99. 野上弥生子とアイスキュロス：「コイーフォロイ(御酒を手向ける人たち)」/ 田村道美 (p.57-76)

家族心理学研究 [11-1] (1997.05)

100. ラバーテの統合的家族療法の実践：夫婦間の親密性と「接近と回避」の気づきについて / 山本崇晴, 国谷誠朗 (p.1-11)
101. コンテクスチュアル(文脈派)アプローチの理解と臨床例への適用：対話の誕生とそのためのセラピストの働きかけ / 中釜洋子 (p.13-26)
102. 青年期における現在および未来の家族イメージに関する研究：動的家族画, 家族イメージとSD法を使って / 相模健人 (p.27-41)
103. 第三世代システム論と自己創出的応答 / 十島雍蔵 (p.43-56)

家庭科教育 [71-2] (1997.02)

104. 米国高校家庭科教科書の検討(5)：Family Livingに見る家族の学習視点：家族学習の新たな展開に向けて / 山田綾[ほか] (p.17-27)
105. 家族ドラマを教材として / 菅谷よし子 (p.28-32)

家庭科教育 [71-3] (1997.03)

106. 「児童虐待」という問題 / 内藤和美 (p.11-15)
107. ジェンダーを考える / 古川知子 (p.39-45)
108. 二十一世紀を担う子どもたちの食環境についての一考察：母親の食行動の動向から / 山口静枝 (p.53-58)

家庭科教育 [71-5] (1997.05)

109. 家庭における母親のテリトリー / 中島喜代子 (p.19-24)
110. 「都心居住」再考 / 大森敏江 (p.25-29)
111. キリスト教の結婚観について / 佐々木隆 (p.30-34)
112. 女性教師と育児休業 / 五島淑子 (p.42-47)
113. 「生活」の科学の歴史を作る試み / 倉元綾子 (p.60-64)

家庭科教育 [71-6] (1997.06)

114. 母親の食行動とその功罪 / 福田恵子 (p.6-12)
115. 家庭科における環境教育：「ごみ」「水」の問題を扱った指導案の学校段階別比較 / 三浦あゆみ[ほか] (p.18-25)
116. 家庭科の授業への主体的学習の取り入れ方を考える / 岩佐昭代 (p.33-38)
117. 短大における消費者教育への取り組み / 武仲晴美 (p.39-43)
118. これからの被服教育を考える：男女で学ぶ「被服学概論」 / 藤原綾子 (p.44-49)

家庭経営学研究 [32] (1997.03)

119. 無報酬労働の概念：家庭経営学からの発信 / 伊藤セツ (p.3-10)
120. ジェンダー統計の中での位置づけ / 大竹美登利 (p.11-19)
121. 育児・介護休業制度とUnpaid Work / 松村祥子 (p.20-28)
122. 農家における家族経営協定などの実績 / 佐藤美千子 (p.29-35)
123. 税制・年金制度におけるアンペイド・ワークの取扱い：女性の就労支援と経済的自立 / 丸山桂 (p.36-43)
124. コンパラブル・ワース / ペイエクィティの視点から：過少評価される女性職のペイド・ワークとアンペイド・ワーク / 居城舜子 (p.44-50)
125. 市民参加型生活支援サービス活動から無報酬労働を考える：「見えない労働」と2つの「見える労働」 / 堀越栄子 (p.51-57)
126. 現行家計収支統計のジェンダー視点からの検討：「1994(平成6)年全国消費実態調査」を中心に / 斎藤悦子 (p.60-68)

神奈川県立栄養短期大学紀要 [29] (1997)

127. 女子短大生の食生活と食事作りへのかかわり方：第3報 / 川口弘子, 横山公通 (p.37-40)
128. 本学入学生の栄養士及び栄養士養成課程に関するイメージ：第一報 / 大谷康子, 浅野勉, 金子精一 (p.41-48)
129. 妊産婦の健康状態と食生活に関する調査 / 東條仁美[ほか] (p.49-54)
130. 住民参加型有償非営利団体：神奈川県ホームヘルプ協会のあゆみ / 栗木薫子 (p.55-65)

神奈川大学心理・教育研究論集 [16] (1997)

131. フェミニズム教育学の基本的視点：フェミニズム教育実践のプロセスへの注目 / 入江直子 (p.5-17)
132. 教育環境を再構築するための視点：学校生活に「豊かさ」を求めて / 澤田敏志 (p.90-96)

神奈川大学評論 [26] (1997.03)

特集：戦後知職人の肖像

133. 1950年代アメリカ・マッカーシズム・女性：丸山眞男の同時代ファシズム観 / 三宅義子 (p.63-75)
134. フランスの家族と社会(1)：家族知の転換 / 丸山茂 (p.223-229)

看護 [49-1] (1997.01)

特集：看護職能団体の可能性を探る

135. 対談 : 「看護」という仕事への評価 / 増田れい子, 見藤隆子 (p.40-56)
136. 日本看護協会機関誌「看護」創刊の経緯 / 大石杉乃 (p.198-206)
137. 優生保護法の一部改正について / 南野知恵子 (p.207-216)

看護 [49-2] (1997.02)

特集: 准看護婦問題に決着: 看護婦養成、21世紀初頭までに一本化

138. 厚生省「准看護婦問題調査検討会報告書」について: 検討経緯とその評価 / 南裕子 (p.42-51)
139. 准看護婦養成停止の早期実現に大きなはずみ: 准看護婦問題調査検討会報告について日本看護協会の見解 / 日本看護協会 (p.52-53)
140. 准看護婦問題調査検討会報告書 / 准看護婦問題調査検討会 (p.54-69)
141. 参考資料 / 厚生省健康政策局看護課 (p.70-72)
142. 准看護婦問題調査検討会関連資料 / 厚生省健康政策局看護課 (p.74-76)

看護 [49-8] (1997.06)

特集: 訪問看護ステーションの現状と課題

143. 訪問看護ステーションの現状と今後の展望 / 佐藤美穂子 (p.46-53)

関西学院大学社会学部紀要 [76] (1997.03)

144. 高齢者に対する家族介護者の「生活の質」研究(その2): 理論的モデルの構築と検証 / 孫良, 浅野仁 (p.69-99)
145. ケベック社会の現在 世俗化と少子化 / 中野秀一郎 (p.207-216)
146. 中国における老人の世代間扶養の状況と意識に関する調査(1): 60歳以上を対象として / 張凡, 浅野仁 (p.217-232)

関西学院大学社会学部紀要 [77] (1997.03)

147. 日中女性の就業意識比較 / 川久保美智子 (p.3-25)
148. オルソン円環モデルに基づく家族機能評価尺度の作成: FACESKG ・実年版の開発 / 横山登志子[ほか] (p.63-84)

季刊家計経済研究 [33] (1997.冬)

149. ワンペアレント・ファミリーに対する税・社会保障給付パッケージ: 20カ国国際比較を通して / ジョナサン・ブラッドショー, 埋橋孝文 (p.62-75)
150. 対談: 家族形態の変動と家族政策について / 袖井孝子, 吉村彰 (p.2-8)
151. ワンペアレント・ファミリーをめぐる国際的動向と

公的政策: 6カ国国際比較共同研究の紹介をかねて / 埋橋孝文 (p.9-19)

152. 母子世帯の消費構造の特質 / 馬場康彦 (p.20-33)
153. 離別女性の生活を支える資源: ケース・スタディから / 木村清美 (p.34-40)
154. 日本におけるワンペアレント・ファミリー研究の現状と課題: 生別母子世帯を中心に / 色川卓男 (p.41-49)
155. 母子福祉施策の地域比較 / 濱本知寿香 (p.50-61)
156. 「消費生活に関するパネル調査」における欠票の特性 / 重川純子 (p.76-83)

季刊家計経済研究 [34] (1997.春)

特集: 暮らしと10年

157. 記念講演: 男の自立と家族 / 原ひろ子 (p.9-13)
158. 家計のサービス化と流通業の新しい動き / 山口貴久男 (p.14-22)
159. これからの日本経済と私たちの暮らし / 惣宇利紀男 (p.23-31)
160. どうなるこれらの年金・介護: 社会保障構造改革の観点から / 木村陽子 (p.32-40)

季刊教育法 [108] (1997.01)

161. 女子高生の結婚観(3): 家族法をどう教えるか / 望月由孝 (p.84-89)

季刊教育法 [109] (1997.04)

162. 女子高生の結婚観(4): 家族法をどう教えるか / 望月由孝 (p.98-104)

季刊子ども学 [14] (1997.冬)

特集: 友達親子

163. 友達親子が語られる背景 / 山田昌弘 (p.16-21)

友達親子の肖像

164. 座談会: 親子の友達関係は成立するのか? / 斎藤学, 松本侑王子, 山田昌弘 (p.22-29)
165. 消費文化を共有する友達親子 / 辻中俊樹 (p.30-37)
166. 郊外が生んだ友達親子その歴史と可能性 / 三浦展 (p.38-45)
167. 「しつけ」なき戦後社会と友達親子 / 河上亮一 (p.46-53)
168. 「子どもする大人」と「大人する子ども」: 少女マンガにおける友達親子 / 赤木かん子 (p.54-59)
169. 向かい合う親子・並ぶ親子 / 奥田隆男 (p.60-65)

友達親子の心理

170. インタビュー: 見えない支配からの自立: 友達親子の不安と甘え / 中村延江, 内田聖子 (p.66-71)

171. 友達親子の「気がね」/井戸ゆかり (p.72-79)
 172. かちとられた関係：不登校に見る友達親子/山下英三郎 (p.80-87)
 173. きずなを結び直す親子たち/熱田恵美子 (p.88-97)
 174. 母と娘がファッションしてる/磯山久美子 (p.98-101)

友達親子の背景

175. 消費社会の友達親子：子どもはなぜ消費者になれるのか/宮本みち子 (p.102-110)
 176. 友達親子の社会的背景/渡辺秀樹 (p.111-118)
 177. 高学歴社会と友達親子/庄司洋子 (p.119-124)
 178. 電子メディアは親子を分断するのか?/川崎賢一 (p.125-131)
 179. 子ども調査から見たこれからの学校の役割について：汗のにおいのする学校に(上)/島内行夫 (p.142-149)

季刊子ども学 [15] (1997.春)

- 特集：科学離れする子ども：科学好きの原点を探る
 180. 座談会：女性科学者が語る科学の魅力/高橋三保子[ほか] (p.80-87)

季刊社会保障研究 [32-4] (1997.Spring)

181. 人口構造と社会保障/岡崎陽一 (p.408-415)
 182. 人口政策と社会保障政策：最近の低出生力に関連して/大淵寛 (p.436-445)
 183. 日本社会の変動と福祉政策/蓮見音彦 (p.455-462)

季刊女子教育もんだい [70] (1997.冬)

- 特集：多様なセクシュアリティ
 184. 座談会：私たちの性的指向と自分の中の「男」とは/伊藤悟[ほか] (p.4-21)
 185. 世界の同性愛(者)をめぐる状況：人権・セクシュアリティ・連帯/河口和也 (p.22-30)
 186. 近代日本の同性愛認識の変遷：男性文化から「変態性欲」への転落まで/古川誠 (p.31-36)
 187. セーラー服とチョークと恋：教室からのゲイ・リブ18年/平野広朗 (p.37-43)
 188. 私にとってのメンズ・リブ：自分への回帰に必要な過程/大塚健祐 (p.44-50)
 189. 心地よい性のあり方ってなんだ：性教育10年の実践と自己変容/原田瑠美子 (p.51-57)

教室から：小学校

190. 男の仕事・女の仕事は決まっている?!：性にとられない職業観と共生の関係を育てる/合原理恵 (p.58-65)

教室から：中学校

191. なぜ「すっぱーえ!」なの?:「らしさ」の呪縛に気づかせる/池部小枝子 (p.66-73)

教室から：高等学校

192. 日本一情熱をこめた恋文：「性」と「愛」を語り学ぶ実践から/坂由美 (p.74-79)
 193. 過去のない人々/竹信三恵子 (p.80-82)
 194. 私のフェミニズム論 第42回：グローバル・フェミニズムをローカルに生きる/寺崎あき子 (p.83-88)
 195. 生きる力とジェンダー再評価プロセス/金子泰史 (p.89-95)
 196. 女性解放思想史講座：オーブ・シュライナー：多様性をいかした社会もとめた「世界市民」/山本千恵 (p.96-104)
 197. 安積遊歩さんに聞く：障害って、おもしろい!!/安積遊歩, 松永み子 (p.105-113)
 198. 女性たちはいま：アフリカ：女性性器切除の廃絶に向けて：11.30国際シンポジウム報告 (p.114-116)
 199. 女偏の文字10：長男の嫁/川田文子 (p.117-119)
 200. 仕事をひらく19：天文家串田麗樹さん：宇宙はいつでも頭の上に見える/古庄弘枝, 串田麗樹 (p.125-127)

季刊女子教育もんだい [71] (1997.春)

特集：女が探る大変動

201. 日本経済の大方向を探る：日本は破局するのか?/岸本重陳, 斎藤茂男 (p.4-13)
 202. 労働現場の変化を探る：雇用形態の多様化と女性の部品化/江上寿美雄, 斎藤茂男 (p.14-22)
 203. 女性の生き方・暮らしを探る：女性の総労働力化と再生産労働/久場嬉子, 酒井はるみ (p.23-29)
 204. 家族の行方を探る：「家族」を脱する可能性/千田有紀 (p.30-35)
 205. 変わり始めた男たち：学校と地域で創りあげた初めての大会/岸裕司 (p.36-41)
 206. シンポジウム報告：教育にジェンダーの視点を!/入江直子 (p.42-49)

教室から：小学校

207. 女の子の生き方モデルを求めて：ジェンダーフリーで働く人たちの教材作り/東京教組(女と男の自立をめざす教育推進委員会) (p.50-55)

教室から：中学校

208. みんな型抜きクッキー?:保健室で出会った子どもたち/滝沢ミチ子 (p.56-61)
 209. 選択肢増やした男女共学体育：共学への抵抗から推進までの三年間/高田由枝 (p.62-67)

210. 自分をほめたい症候群 / 竹信三恵子 (p.68-70)
211. 私のフェミニズム論 第43回: 底辺からの視点 / 関千枝子 (p.71-77)
212. 家庭科教師へのトラバークで見えてきたもの / 小平陽一 (p.78-84)
213. 女性解放思想史講座: マリアローザ・ダラ・コスタ: マルクス主義フェミニズムの家事労働論 / 伊田久美子 (p.85-93)
214. 女と政治: 政治は日常生活の延長 / 小枝すみ子 (p.94-97)

女性たちはいま

215. レポートにみる短大生の「自分さがし」: 初めての「女性学」を担当して / 窪籠子 (p.98-102)
216. 北京世界女性会議から二年目のフランスの女性たち: パリテは、デモクラシーのための闘いである / 梶本玲子 (p.103-105)
217. 報告・日教組第46次教育研究全国集会: ジェンダーフリーからいじめ解消に / 季刊女子教育もんだい編集部 (p.106-109)
218. 女偏の文字 11: 2組の夫婦 / 川田文子 (p.110-112)
219. 写真を読む 1: 「日本の女たち 幕末から現代まで」: 初のビジュアルな多角的女性史 / 岩尾光代 (p.113-115)
220. 仕事をひらく 20: 植木職人高井歩さん: 三度の食事がなによりおいしい / 季刊女子教育もんだい編集部 (p.122-124)
221. ぐるーぶ紹介: フィリピンの障害を持つ子どもたちを支援する「バタバタの会」 / 松永るみ子 (p.125-127)

季刊年金と雇用 [16-1] (1997.06)

222. 日本相続法と配偶者相続権 / 人見康子 (p.4-10)
223. アメリカ相続法の最近の動向 / 棚村政行 (p.11-22)
224. 英国相続法における生存配偶者の地位: 無遺言相続の場合を中心に / 許末恵 (p.23-29)
225. フランスの相続制度: 配偶者の権利を中心として (p.30-35)
226. イタリアの相続制度について: 配偶者相続権を中心にして / 松浦千誉 (p.36-43)

季刊保育問題研究 [163] (1997.02)

227. 児童福祉法見直しに関する意見書 / 全国保育問題研究協議会保育政策検討委員会 (p.102-117)

季刊労働法 [181] (1997.03)

特集: 介護保険制度をめぐる問題点

228. 介護保険(法)制度創設と社会保障、労使関係(法)制度変革の課題 / 佐藤進 (p.6-23)
229. 公的介護保険制度の検討課題 / 大脇雅子 (p.24-37)
230. 「介護保険と費用負担」 / 一圓光彌 (p.38-51)
231. 介護労働力をめぐる労働市場と法的問題 / 手塚和彰 (p.52-61)
232. 社会的ケアの展開と介護給付サービスの課題 / 石橋敏郎 (p.62-77)
233. 成熟社会における地域福祉のあり方: 武蔵野市の問題提起 / 竹内道則 (p.78-88)
234. カナダ オンタリオ州「賃金衡平法」の解釈 / 木村愛子 (p.91-127)
235. 女性臨時社員と同正社員の賃金格差が均等待遇理念に反する場合 / 石井保雄 (p.178-181)
236. 中途採用男女間の初任給格差 / 小俣勝治 (p.186-189)

紀要 / 江南女子短期大学 [26] (1997.03)

237. 幼児教育としての「表現」について(2): 「感性」と学校教育 / 坂井旭 (p.47-64)

紀要 / 北星学園女子短期大学 [33] (1997.03)

238. 女子学生の栄養状態について: 体格、エネルギー摂取状況並びに尿中クレアチニンおよびミネラル排泄量より考察 / 斎藤洋子[ほか] (p.115-124)
239. 平和を女性学の立場で考える: 世界平和を勝ち取るための女性の役割について / ベティ・リアドン、吉田かよ子 (p.9-13)
240. 日本は女性文学の先進国か?: 比較女流文学: 小野小町の場合 / 佐藤俊子 (p.21-32)
241. 占領期に出版された児童読物: 「占領期検閲児童書目録」上巻を手がかりに / 谷暎子 (p.33-42)
242. 女性の生活意識と生涯学習: 本学学生の生活意識と生涯学習調査から / 東川刺美 (p.73-83)
243. 女子学生の食生活状況について: 北星学園女子短期大学の場合 / 山口和美 (p.85-95)

教育 [47-2] (1997.02)

特集: スクールカウンセラー・教師・養護教諭

244. スクールカウンセリング: その実際と展望への視点 / 横湯園子 (p.6-15)
245. アメリカのスクールカウンセリングの経緯 / ダリル・八木、中田洋二郎、峯村ゆり (p.26-40)
246. 私にとってのスクールカウンセリング / 上村靖子 (p.41-49)

教育 [47-4] (1997.04)

247. 最近の歴史教科書問題に関する私たちの見解 / 教

- 育科学研究会常任委員会 (p.6-8)
248. 教師の役割と地位に関するユネスコ勧告：教師の専門的自律性と責任の強化を / 河内徳子 (p.103-104)
249. ユネスコ第45回国際教育会議宣言 ジュネーブ：1996.9.30-10.5 / 河内徳子；菊地恵子訳 (p.104-117)

教育 [47-5](1997.05)

250. 東大で学生が「慰安婦」証言を聞く会 / 金馬国晴 (p.120-124)

教育委員会月報 [48-12](1997.02)

特集：家庭教育の充実

251. 家庭教育の充実に向けて / 牧野カツコ (p.4-8)
252. 家庭教育の充実に向けた支援施策 / 文部省生涯学習局婦人教育課 (p.9-13)
253. 事例紹介 1：子育てフェスティバル95の概要：今こそ子育てサークルを / 徳島県教育委員会 (p.14-19)
254. 事例紹介 2：家庭教育の充実に向けて / 旭川市中央公民館 (p.17-19)
255. 事例紹介 3：まちぐるみPTA連携事業の概要：地域ぐるみで家庭教育の推進を / 高知県教育委員会 (p.20-22)

教育委員会月報 [49-1](1997.04)

256. 調査・統計：教員免許状の授与状況等について / 文部省教育助成局教職員課 (p.73-88)

教育学部論集 / 創価大学教育学部 [42](1997.03)

257. 中学・高校生の情報倫理感覚に関する調査報告 / 中野目直明, 関田一彦 (p.57-73)

教育情報研究 [12-3](1997.01)

258. 国立婦人教育会館におけるマルチメディアの利用と課題 / 青木一恵 (p.31-34)

教育と医学 [45-2](1997.02)

特集：いじめと社会

259. 「いじめ」に家庭はどう対応するか / 深谷和子 (p.42-47)

教育と医学 [45-4](1997.04)

特集：高齢者と介護

260. 老人介護の成立と背景 / 樋口恵子 (p.4-11)
261. 高齢者介護の制度改革とケアマネジメント / 中島健一 (p.12-18)
262. わが国の公的介護保険導入の問題点 / 松田晋哉 (p.19-25)
263. 家族のあり方の変貌と介護 / 石毛えい子 (p.26-33)

264. 現代社会における老いの意味 / 奥川幸子 (p.34-40)
265. 訪問看護ステーションと在宅ケア / 山崎摩耶 (p.41-47)
266. 介護とホームヘルパーの役割 / 小田兼三 (p.48-53)
267. 在宅介護の現状：限界にきた家族介護 / 因利恵 (p.54-60)
268. ドイツにおける公的介護保険 / 本沢巳代子 (p.61-68)

教育と医学 [45-5](1997.05)

特集：親子の対話

269. 親子の対話とは / 稲垣良典 (p.4-10)
270. 親子の対話 昔と今 / 伊藤友宣 (p.11-18)
271. 父親との対話、母親との対話：精神科治療の現場から / 西園マーハ文 (p.19-25)
272. 親業訓練のすすめ / 近藤千恵 (p.26-33)
273. 子どもの成長と親子の対話内容 / 笠原正洋 (p.34-40)
274. 親子の対話とコミュニケーション技術 / 岡田隆介 (p.41-47)
275. 親子の対話を媒介するもの：「冗談関係」の視点から / 藤山正二郎 (p.48-53)
276. 親子の対話 アメリカ・ロシア・日本 / 服部祥子 (p.54-60)
277. 「親子の対話」という神話 / 浅野純子 (p.61-66)
278. 現代の子ども 2：子どもの心と体の成長・発達と母子関係 / 満留昭久 (p.81-86)

教育と医学 [45-6](1997.06)

279. 現代の子ども 3：最近の「いじめ」をめぐる / 野島一彦 (p.92-97)

教育と情報 [467](1997.02)

特集：テレビと子ども

280. 海外の子ども向けテレビ番組の動向 / 小平さち子 (p.18-23)
281. 調査を読む：卒業者の進路選択の構造的変化：平成8年度学校基本調査速報：高等教育機関の卒業後の状況調査より / 亀井耕治 (p.26-31)

教育と情報 [468](1997.03)

282. 大卒女子への支援：キャリアと意識の調査から / 小杉礼子 (p.14-19)

教育と情報 [471](1997.06)

特集：小学生の友達付き合い

283. 子どもにとっての友達 / 河合隼雄 (p.2-5)
284. 友達関係のストレス / 岡安孝弘 (p.6-13)
285. 自立する子どもを育てる / 中村美和子 (p.14-19)

286. 日本・米国・台湾の小学生の友達観とコミュニケーション比較 / 上嶋正彦 (p.20-25)

287. 教頭の職務と登用の課題 / 坂本孝徳 (p.34-37)

教育評論 [598] (1997.03)

288. 教育総研レポート 31 : 多角的な視点が求められるアジアの児童労働問題(上) / 荒木重雄 (p.68-71)

教育評論 [599] (1997.04)

289. 教育総研レポート 32 : 多角的な視点が求められるアジアの児童労働問題(下) / 荒木重雄 (p.74-77)

教育評論 [600] (1997.05)

特集 : 子どもが輝く学校へ

290. いま、日本軍「慰安婦」問題は? / 山口明子 (p.37-40)

291. 創る : どうして分けるの? 女の子、男の子 / 吉田英子 (p.61-64)

熊本学園商学論集 [3-1/2] (1997.03)

292. パートタイム労働者について / 糸園辰雄 (p.39-58)

くらしと教育をつなぐ-We [5-9] (1997.01)

293. シネマの魔 : 水田宗子さんの反論にうなずきつつ... / 武田秀夫 (p.32-35)

くらしと教育をつなぐ-We [5-10] (1997.02)

特集 : 女性と自己表現

294. インタビュー : 複眼で見る : 安心して自分を表現できる場とは... / 深澤純子, 稲邑恭子 (p.4-12)

295. インタビュー 感じることを分かち合う / 原美奈子, 稲邑恭子 (p.13-21)

296. ワークショップ報告 : テレサ・ウィリアムズ : 「内なる女神 聖なる場所」 / 大沼もと子 (p.22-30)

くらしと教育をつなぐ We [6-2] (1997.05)

特集 : 母性という罫

297. インタビュー 複眼で見る : 母と娘のフェミニズム / 水田宗子, 武田秀夫, 稲邑恭子 (p.4-14)

298. 父と娘のフェミニズム : 母性の二面性をめぐって / 河村ふみ (p.15-22)

299. インタビュー 役割意識から身をずらす / 野田正彰, 岡村聡子, 稲邑恭子 (p.23-27)

300. 「フェミニズムはひとつ」から「多様なフェミニズム」へ / 堀田碧 (p.28-34)

月刊国民生活 [27-1] (1997.01)

301. INTERVIEW この人 : 戦後49年、地域を重視して、生活に根ざした問題に取り組んできた婦人団体 /

秋元洋子, 可知めぐみ (p.30-31)

月刊国民生活 [27-4] (1997.04)

特集 : 地域で広がる生活者ネットワーキング

302. 柔軟な成熟社会を築く生活者のネットワーキング / 藤原房子 (p.8-15)

303. 地域に広がるボランティアな市民活動 : 生活の場からの「地殻変動」の始まり / 中村陽一 (p.16-22)

304. NPOの新しい役割を考える / 山岡義典 (p.24-29)

305. 自治体における情報支援をベースとした市民活動支援 / 村林正次 (p.30-37)

306. インターネット上の情報流通について : 電気通信における利用環境整備に関する研究会報告書 / 斉藤啓昭 (p.64-69)

月刊国民生活 [27-5] (1997.04)

特集 : 規制緩和と消費者

307. 消費者・生活者からみた規制緩和にひとこと : 規制緩和の条件は情報公開 / 吉岡初子 (p.32-33)

308. INTERVIEW この人 : 保健所内に日本初の子ども事故予防センターを設立 / 前田孝弘, 可知めぐみ (p.38-39)

309. これからの消費者 ネットワーキング 14 : せたがやまちづくりフォーラムの活動 / 清水透 (p.60-61)

月刊国民生活 [27-6] (1997.06)

特集 : 消費者取引の適正化に向けて

310. 契約に関する情報提供・消費者教育のあり方 / 本田純一 (p.24-30)

月刊社会教育 [41-1] (1997.01)

特集 : 生涯学習審議会答申をどう読むか

311. 21世紀に生きる生涯学習・社会教育を : 生涯学習審議会答申を読む / 大串隆吉 (p.6-11)

312. 社会的ニーズとそれを担う主体形成 : NPO、協同運動との関わり / 大嶋茂男 (p.23-26)

313. 子どもの「学び」が地域に切り拓くもの / 神原昭彦 (p.27-30)

314. 高齢者の学習をめぐって / 宮島敏 (p.31-34)

315. ボランティア活動について : 図書館を見て / 石原照盛 (p.35-38)

316. 高等教育・大学の立場から / 新田照夫 (p.39-43)

317. 始動、「こころの子育てインターネット関西」 / 村田和子 (p.68-73)

318. 子ども・女・家庭からみた中教審 / 片岡洋子 (p.74-79)

- 月刊社会教育 [41-2](1997.02)
 特集：子どもとおとなのパートナーシップ
319. このままでは危ない子どもの自立：子ども親も「変わった!」/山田陽三 (p.6-12)
320. 子どもの目線で協同の関係を：さっぽろ子育てネットワークの活動/河野和枝 (p.36-40)
321. 荒れた中学校を再生した父親たち/神田嘉延 (p.64-68)

- 月刊社会教育 [41-4](1997.04)
 特集：生涯学習入門：学びを創る
322. 公民館を拠点に育った女性の地域活動：松本市婦人のつどいの実践から/白戸洋, 有賀涼子 (p.36-42)
323. 学習ボランティアによる企画運営：下町コミュニティカレッジにおける住民参加/國武禮子 (p.71-76)
324. アバンセの二年間、そしてこれから/馬場三恵子 (p.77-80)
325. アバンセは女性センター、生涯学習センターです/小副川ヨシエ (p.80-82)

- 月刊社会教育 [41-6](1997.06)
 特集：教育基本法50年
326. 教育基本法50年と生涯学習振興整備法の現段階/長澤成次 (p.17-25)
327. 練馬母親連絡会と教育基本法50年/野々村恵子 (p.35-40)

- 月刊女性&運動 [171](1997.01)
328. 21世紀にはばたく女性たち/櫛田ふき, 井上美代 (p.6-11)
329. 総選挙で示されたもの：データ・世論調査にみる有権者の意識と動向 (p.12-17)

- 月刊女性&運動 [172](1997.02)
330. 世界の女性情報：歴史の中に生きる古代エジプト女性/山森理子 (p.4-5)
331. 「教育費の実態アンケート」の結果/新日本婦人の会 (p.45-54)
332. 職場はいま!：政府・財界の21世紀戦略の下で 第5回：日立の男女差別裁判/堀口暁子 (p.22-23)

- 月刊女性&運動 [173](1997.03)
333. 世界の女性情報 2：現代アラブ社会の女性/山森理子 (p.28-29)
334. 「女子保護」規定関連資料：女子保護規定の撤廃は許さない!：真の男女平等をもとめる運動と共同を

ひろげるために：雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等のための労働省関係法律の整備 (p.36-38)

335. 「女子保護」規定関連資料：新日本婦人の会声明：男女の労働条件を悪化させ、平等に逆行する「女子保護」規定の撤廃は許しません：労働省婦人少年問題審議会の最終報告について/新日本婦人の会中央 (p.39)
336. 「女子保護」規定関連資料：日本弁護士連合会 会長声明：婦人少年問題審議会婦人部会における「公益委員案」の提示について/日本弁護士連合会 (p.40)
337. 「女子保護」規定関連資料：ゼンセン同盟：男女雇用機会均等法及び労働基準法改正に関するゼンセン同盟の意見/高木剛 (p.41-42)

- 月刊女性&運動 [174](1997.04)
 特集：教育基本法施行50年にあたって
338. 現代女子高校生事情：薬物使用の実態から/和田茂 (p.16-19)
339. 「従軍慰安婦」記述をめぐる教科書攻撃を考える/茂呂文彦 (p.26-29)
340. 世界の女性情報 3：ポーランドの平和教育/永島京子 (p.32-33)

- 月刊女性&運動 [175](1997.05)
 特集：女性と憲法
341. 憲法と私たちの働き方 (p.10-13)
342. 「女子保護」規定撤廃反対の共同の輪ひろげて/新日本婦人の会 大阪・北支部 (p.14-15)

343. 児童福祉法「改正」と保育所のゆくえ/村山祐一 (p.32-35)
344. 世界の女性情報 4：医労連の国際シンポジウム/江尻尚子 (p.40-41)

- 月刊女性&運動 [176](1997.06)
345. インタビュー 半田たつ子さん：自分を肯定できる道を探して (p.4-7)
346. 世界の女性情報 5：タイの少女人身売買/稲垣三千穂 (p.44-45)

- 月刊福祉 [80-1](1997.01)
347. 手をつなぐアジア：女性の人権を守るために必要なシェルターのネットワーク 1/東海林路得子 (p.50-53)

- 月刊福祉 [80-2](1997.02)

348. 手をつなぐアジア：閉鎖性の打開を！ / 東海林路得子 (p.44-47)

349. 豊かな市民社会の構築に向けて日本NPOセンター設立 / 日本NPOセンター事務局 (p.102-103)

月刊福祉 [80-3] (1997.03)

350. 調査からみるボランティア活動NPO支援における地方自治体の役割その1：全社協・ボランティア活動に対する社会的支援策のあり方に関する調査・研究より / 全社協・全国ボランティア活動振興センター (p.90-97)

月刊福祉 [80-4] (1997.04)

351. 調査からみるボランティア活動NPO支援における地方自治体の役割その2：全社協・ボランティア活動に対する社会的支援策のあり方に関する調査・研究より / 全社協・全国ボランティア活動振興センター (p.85-91)

月刊福祉 [80-6] (1997.06)

特集：児童福祉改革元年：児童福祉法一部改正案提出さる

352. 児童家庭支援センターの展望 / 柏女豊峰 (p.42-47)

353. 母子家庭生活支援のこれから：山崎美貴子 明治学院大学教授に聞く / 山崎美貴子 (p.48-53)

月刊婦人展望 [478] (1997.01)

354. 女性行政と行政改革 / 石原信雄, 縫田暉子 (p.4-7)

355. 第41回総選挙特集 3：女性衆院議員アンケート (p.8-11)

356. 女性参政50周年 女性の政治参画シリーズ：第8回 (最終回)：町村長インタビュー / 太田貴美, 吉良史子 (p.12-14)

月刊婦人展望 [479] (1997.02)

357. 座談会「男女共同参画2000年プラン」を検証する / 有馬真喜子, 古橋源六郎, 藤原房子 (p.4-8)

358. 男女共同参画2000年プラン：男女共同参画社会の形成の促進に関する平成12年(西暦2000年)度までの国内行動計画(抜粋) (p.9-11)

359. チェルノブイリ事故から10年：ザダロージュナヤ医師が語る被害禍のウクライナ女性 / 和田あき子, 山中怜子, タマーラ・サダロージュナヤ (p.12-13)

360. 参政権と女性活動の展開(1)：第1回(96年12月13日開催) 婦人参政権運動の位相と展開 / 伊藤康子 (p.14-15)

361. 参政権と女性活動の展開(1)：第2回(97年1月17日開催)：女性運動の軌跡と課題 / 千野陽一 (p.15-16)

月刊婦人展望 [480] (1997.03)

362. 座談会 ポスト北京・自治体の取り組みは進んでいるか / 浅川共子[ほか] (p.5-10)

363. 参政権と女性活動の展開 (2)：第3回(1月31日開催) 女性と労働運動 / 伊藤セツ (p.11-12)

364. 参政権と女性活動の展開(2)：第4回(2月14日開催) 婦人教育と施策 / 志熊敦子 (p.12-13)

365. 白梅学園短大元学長 田中未来さんに市川房枝の「軍部批判講演」を聞く (p.14-15)

366. 活動の拠点 女性会館の現状とこれから 26：財団法人 岐阜県婦人会館 / 武藤光明 (p.17)

月刊婦人展望 [481] (1997.04)

367. 平成9年度 国の女性関係予算案：総理府：厚生省：労働省：文部省：農林水産省 (p.6-13)

368. 参政権と女性活動の展開 3：第5回(2月28日開催) 社会福祉にみる女性 / 林千代 (p.15-16)

369. 参政権と女性活動の展開(3)：第6回(3月14日開催) 政治参画と女性 / 山口みつ子 (p.16-17)

月刊世論調査 [29-1] (1997.01)

370. 家族法 / 総理府広報室 (p.2-32)

月刊世論調査 [29-2] (1997.02)

371. 国民生活 / 総理府広報室 (p.2-91)

月刊ロアジュール [22-2] (1997.06)

372. レジャー白書 97：連休新時代(その1) / 山田紘祥 (p.6-13)

研究所報 / 名古屋経済大学消費者問題研究所 [19] (1997.03)

373. 消費者問題の新しい動向と特徴 / 角谷登志雄 (p.1-42)

374. 韓国における消費者問題に関する一考察 / 安孝錫 (p.93-107)

375. 食料品価格の高騰に対するアメリカ消費者の不買運動：草の根レベルでの主婦の抗議 / モンロー・フリードマン, 小木紀之 (p.183-203)

県立新潟女子短期大学研究紀要 [34] (1997)

376. 保母に求められる資質に関する総合的研究(1)：専門性および性格特性の問題を中心に / 桜井慶一 (p.1-10)

377. 児童手当に関する論争史 / 植木信一 (p.31-40)

現代思想 [25-1] (1997.01)

特集：クレオール

378. インター・マリッジをめぐって / 柴田佳子 (p.200-

211)

現代思想 [25-2] (1997.02)

379. からかわれ、さらされる「身体」と「論理」：あるディスコース空間にしくまれ、つくられる性差別現象の解読 / 好井裕明 (p.40-56)

現代思想 [25-3] (1997.03)

380. イリチとフーコー：セクシュアリテをめぐって / 桜井直文 (p.251-261)

現代思想 [25-4] (1997.04)

381. 文化国家 の優生法：優生保護法と国民優生法の断層 / 松原洋子 (p.8-21)

特集：ロシアはどこへ行く

382. ロシア文学とフェミニズムの微妙な関係について / 沼野恭子 (p.205-213)

現代思想 [25-5] (1997.05)

特集：ストリート・カルチャー

383. 保育に人がやってくる：「沈没家族」共同保育の試み / 加納穂子 [ほか] (p.195-207)
384. メンズリブの可能性 / 豊田正義 (p.208-213)

現代思想 [25-6(臨増)] (1997.05)

特集：レズビアン / ゲイ・スタディーズ

385. レズビアン / ゲイ・スタディーズの現在 / 浅田彰 [ほか] (p.18-57)
386. 日本のレズビアン・ムーヴメント / 出雲まろう [ほか] (p.58-83)
387. アカーの裁判を傍聴して / 柄谷行人 (p.84-87)
388. セックス / ジェンダー / セクシュアリティの三位一体神学の解体のあとで / 上野千鶴子 (p.88-93)
389. 性を考える / Gayle Rubin ; 河口和也訳・解題 (p.94-144)
390. 資本主義とゲイ・アイデンティティ / John D' Emilio ; 風間孝訳・解題 (p.145-158)
391. 批評的にクィア / Judith Butler ; Clair Marie訳・解題 (p.159-177)
392. フロイト、セクシュアリティ、倒錯 / Theresa de Lauretis ; Jonathan Mark Hall訳・解題 (p.178-201)
393. クィア・セオリー：誰のセオリー? / Harriet Malinowitz ; 三村千恵子訳・解題 (p.202-218)
394. レズビアンとゲイの生存のエートス / Mark Blasius ; 村山敏勝訳・解題 (p.219-247)
395. 忘却 / 取り込みの戦略：バイセクシュアリティ序説 / 竹村和子 (p.248-256)

396. 鏡と戦車：「エイズ」、主体性、そしてアクティヴィズムの修辞学 / Lee Edelman ; Keith Vincent, 北丸雄二訳・解題 (p.257-285)
397. 世界的なまなざし・全域化するゲイ / Dennis Altman ; 松村竜也訳・解題 (p.286-308)
398. セックスの何が問題なのか / 田崎英明 (p.309-317)
399. オランダ・ゲイ・アイデンティティの脱政治化：何故、オランダのゲイはクィアではないのか / Jan Willem Duyvendak ; 岡島克樹訳・解題 (p.318-333)
400. 日本のエイズ・パニックと私の年度休暇 / John Whittier Treat ; 茂田公基訳・解題 (p.334-369)
401. 怒りを超えて：アクティヴィストによるエイズ危機の構成 / Gilbert Elbaz ; 笹田直人訳・解題 (p.370-404)
402. エイズのゲイ化と同性愛者たちの政治化 / 風間孝 (p.405-421)

現代思想 [25-8] (1997.07)

403. 対談：神話のなかの女性：大地母神から魔女、聖母まで / 大林太良, 吉田敦彦 (p.316-333)

現代思想 [25-10] (1997.09)

特集：教科書問題：歴史をどうとらえるか

404. 証言とアート / 富山妙子, 嶋田美子, レベッカ・ジェニスン (p.36-62)
405. 映画『ナヌムの家』を理解する一つの試み「分かる」ということをめぐって / 細身和之 (p.63-71)
406. アイルランドで見た「従軍慰安婦」についてのパフォーマンス：第四回国際女性劇作家会議に参加して / 池内靖子 (p.72-77)
407. 対談：ジェンダーと戦争責任 / 大越愛子, 高橋哲哉 (p.132-154)

現代性教育研究月報 [15-2] (1997.02)

408. 10代妊娠をめぐる諸問題：「10代の望まない妊娠防止対策に関する研究」中間報告より / 家坂清子 (p.1-5)

現代性教育研究月報 [15-3] (1997.03)

409. 10代少女の性の商品化意識 / 内山絢子 (p.1-5)

現代性教育研究月報 [15-6] (1997.06)

410. 高校生のエイズに関する意識と行動 / 伊藤敏裕 (p.1-5)

現代のエスプリ [358] (1997.05)

特集：トラウマとアダルト・チルドレン

411. 座談会 ト라우マと家族 / 斎藤学, 三橋順子, 皆川邦直 (p.5-21)

412. 家族トラウマ：トラウマ理論とアダルト・チルドレン / 齋藤学 (p.22-55)
413. 家族トラウマ：親と子という危険な関係：ACという概念をめぐる / 齋藤学 (p.56-65)
414. 家族トラウマ後遺症：ピエール・ジャネと「心理的トラウマによる適応破綻」(抄訳) / B・L・ヴァン・デア・コーク, D・ヴァン・デア・ハート; 菱川愛訳 (p.66-82)
415. 家族トラウマ後遺症：児童期性的トラウマに関する記憶の回復と検証 / J・L・ハーマン, E・シャッソウ; 穂積由利子訳 (p.83-98)
416. 家族トラウマ後遺症：慢性ショック / W・クリッツバーグ; 白根伊登恵訳 (p.99-118)
417. 家族トラウマ後遺症：解離性同一性障害(多重人格) / 田中究 (p.119-129)
418. 家族トラウマ後遺症：日本の摂食障害者における児童期性的虐待の頻度について / 齋藤学 (p.130-139)
419. アダルト・チルドレン：アダルト・チルドレン(序文) / J・G・ウォイティッツ; 白根伊登恵訳 (p.140-150)
420. アダルト・チルドレン：ACoAP：虐待する親のもとで育てられた人々 / 三橋順子 (p.151-158)
421. アダルト・チルドレン：ACからみた症例アンネ・ラウ / 中山道規, 佐野信也 (p.159-174)
422. アダルト・チルドレン：ACは臨床単位になり得るか? / 緒方明 (p.175-182)
423. アダルト・チルドレンの癒しと成長：グリーン・ワークとエンパワメント / 齋藤学 (p.183-195)
424. アダルト・チルドレンの癒しと成長：アダルト・チルドレンの精神療法 / 西尾和美 (p.198-207)
425. アダルト・チルドレンの癒しと成長：アダルト・チルドレンが親を告発するとき / 齋藤学, 木下淳博 (p.208-226)

現代のエスプリ [360](1997.07)

特集：心身症の理論と療法

426. 心身症の概念と定義：その変遷と新しい概念 / 末松弘行 (p.20-29)
427. 心身症の診療：心身医学の医療モデルと全人的医療 / 河野友信 (p.30-37)
428. 交流分析 / 杉田峰康 (p.77-87)
429. 精神分析療法 / 村岡倫子 (p.88-97)
430. 認知行動療法 / 青木宏之 (p.116-125)
431. 家族療法 / 早川洋, 東豊 (p.136-143)
432. 音楽療法 / 篠田知璋 (p.181-190)
433. 絵画療法 / 村山隆志 (p.191-201)

現代のエスプリ [362](1997.09)

特集：認知科学：人の心を科学する

434. 認知発達：乳幼児期の語彙獲得 / 荻野美佐子 (p.123-136)

厚生 [52-5](1997.05)

特集：少子化を巡る環境と意識

435. 少子化問題のポイント / 阿藤誠 (p.12-13)
436. 意識の不変性が少子化を招く / 山田昌弘 (p.14-15)
437. 現代の社会環境と少子化 / 北村邦夫 (p.16-17)
438. 少子化の動向と背景：少子化の現状と認識 (p.20-25)

厚生指標 [44-5](1997.05)

439. 近年の日本の人工妊娠中絶の動向：マクロ統計資料の検討 / 佐藤龍三郎 (p.12-17)
440. 働く女性の出産の状況：平成8年度人口動態社会経済面調査より / 達見憲一[ほか] (p.26-37)

厚生指標 [44-6](1997.06)

441. 平成7年国民栄養調査結果の概要 / 厚生省保健医療局健康増進栄養課 (p.40-51)

厚生指標 [44-7](1997.07)

442. 平成8年保健福祉動向調査の概況：健康 / 厚生省大臣官房統計情報部保健社会統計課国民生活基礎調査室 (p.45-58)

高知大学教育学部研究報告.第2部 [53](1997)

443. 社会人のスポーツ志向に関する研究(1) / 稲田俊治 (p.7-14)

神戸女子大学家政学部紀要 [30](1997.03)

444. 「健康食品」に係る消費者相談からみた栄養・消費者教育の意義 / 藤井昭子 (p.1-13)
445. 成熟ラットにおける味覚の雌雄差 / 小原郁夫 (p.39-46)
446. 神戸女子大学寮生の食生活に関する意識調査の結果 第一報 / 近藤誓子, 渡邊正雄 (p.47-64)

神戸女子大学文学部紀要 [30](1997.03)

447. 女子大生におけるハーバードステップテスト(変法)の音楽効果について(その3) / 重福京子 (p.181-189)
448. 百歳以上の長寿者に関する一考察(その4)：7つのファクターを中心に / 外園一人 (p.229-257)
449. 一九二〇年代の中国女子教育 / 小林善文 (p.19-32)

国際協力プラザ [32](1997.02)

450. 伝統文化の継承と女性の自立を求めて / ペン・セタリン (p.28-31)

国際基督教大学学報. 1-A, 教育研究 [39] (1997.03)

451. 児童の自己評価維持機制と学校活動：自己評価維持とスクール・モラル / 磯崎三喜年 (p.85-102)

452. ライフ・サイクルと対応する価値志向の縦断的研究 / 大井直子 (p.237-271)

国際人流 [10-2] (1997.02)

453. 統計から見た最近の国際結婚の状況 / 藤田小織 (p.36-40)

国際人流 [10-4] (1997.04)

特集：外資系企業で活躍する女性たち

454. 馬越恵美子・東京純心女子大学助教授(異文化経営論)に聞く：外資系企業をめざす女性へのアドバイス (p.3-6)

国際的な職場でキャリアアップ！：輝く女性たちに聞く

455. 日々変化する株式市場で企業の調査に活躍するアナリスト / 近江静子 (p.7-9)

456. 女性ならではの感性をマーケティングに活かす / 津田順子 (p.9-12)

457. 自由化の進む金融業界でリスクマネジメントに携わる / 山本玲子 (p.12-14)

458. 信託銀行でセールスの仕事を目指す / 田中亜樹 (p.14-15)

459. 外資系企業にみる採用・給与・人事等：労働省「外資系企業の労使関係等実態調査結果」から / 国際人流編集局 (p.16-19)

国際人流 [10-5] (1997.05)

460. 平成八年における出入国者統計：外国人及び日本人 / 法務省入国管理局 (p.48-53)

国際問題 [449] (1997.08)

461. アジアの人権：地域人権機構への道 / 阿部浩己 (p.2-16)

国民生活研究 [36-4] (1997.03)

462. 21世紀の生活展望「ゆとり資源」の増大とその活用 / 田口博之[ほか] (p.16-27)

国民生活研究 [37-1] (1997.06)

463. 戦後消費者運動史関連文献解題：1-食品の安全性、産直・有機農業等 / 半澤廣志 (p.52-70)

464. PL法施行以後の消費者相談に関する一考察 / 井口尚志 (p.17-33)

465. 韓国におけるPL法制定をめぐる現状 / 細川幸一 (p.34-41)

466. 規制緩和の進展と消費者の対応 / 土肥原洋 (p.1-16)

国立教育研究所紀要 [127] (1997.03)

467. 中学校の数学教育・理科教育の国際比較：第3回国際数学・理科教育調査報告書 / 国立教育研究所 (p.7-270)

こころの科学 [71] (1997.01)

特集：高齢者を介護する

468. 高齢者介護対策の現状 / 大塚俊男 (p.16-20)

469. 高齢者を抱える家族のこころ / 鎌田ケイ子 (p.21-26)

470. 家庭介護者の陥りやすいこころの病 / 笠原洋勇 (p.27-32)

471. 高齢者のこころと適応 / 下仲順子 (p.33-37)

こころの科学 [73] (1997.05)

472. 育児ストレス：日本とイギリスを比較して / 大日向雅美 (p.7-12)

子どものしあわせ [550] (1997.09)

特集：アジアの子どもたちとともに

473. アジアの子ども買春の問題は、日本の少女売春と同じ社会の価値観から生まれた：子ども買春被害対策弁護士団弁護士・坪井節子さんに聞く (p.26-31)

子どもの文化 [29-2] (1997.02)

特集：今日のマンガ・アニメの動向

474. 今日のマンガ・ブームを考える / 小木美代子 (p.4-10)

475. 雑誌マンガの傾向：最近の子どもマンガ雑誌を読む / 前沢和夫 (p.11-13)

476. 文化としての「アニメ」と「マンガ」 / 片岡輝 (p.14-17)

477. アニメ映画の動向：最近のアニメ映画を通して / 吉田和子 (p.18-21)

478. オビニオン子どもの文化：子どもの文化とは：試論・その4 / 子育て学の理論を作る会 (p.22-28)

子どもの文化 [29-4](1997.04)

特集：児童福祉法改定とその検討

479. 「児童福祉法等の一部を改正する法律案要綱」をめぐって：その全体的検討 / 竹中哲夫 (p.4-11)
480. 児童福祉法改正と保育現場の課題：子どもの幸せは保障されるか / 浅井春夫 (p.12-16)
481. 学童保育の法定はどうあるべきか：いくつかの問題点 / 上平泰博 (p.17-21)
482. 児童福祉法改正(案)にみる児童自立支援システム構想と養護施設問題 / 長谷川真人 (p.22-25)
483. 児童福祉法等の一部を改正する法律案要綱 (p.26-29)
484. オピニオン子どもの文化：子どもの文化とは：試論・その6 / 子育て学の理論を作る会 (p.42-47)

子どもの文化 [29-5](1997.05)

特集：地方版「エンゼルプラン」の動向

485. 地方版エンゼルプランをめぐって：背景とその流れから / 川島克之 (p.4-9)
486. 子どもにやさしい街づくり推進会議-これは川越版エンゼルプラン-の活動 / 愛川比沙子 (p.12-17)
487. 地域社会で孤立した親と子にどんな子育て支援ができるか：子どもも親も主人公になれる親子教室 / 丸山政子[ほか] (p.18-20)
488. 地域にある公的施設ができる子育て支援のあり方・公園デビュー / 渡辺暢子 (p.21-23)

子どもの文化 [29-6](1997.06)

489. もっと語りや朗読を：地域の女性史を伝える朗読会や語りの入門セミナーも開かれる / 上地ちづ子 (p.40-43)

こども未来 [305](1997.02)

490. 企業が取り組む育児支援：その現状と課題 / 網野武博[ほか] (p.7-15)

こども未来 [306](1997.03)

491. 地方からの報告：[石川県]：多様な子育てニーズに応えるために いしかわ子育て支援財団設立 (p.26-29)

こども未来 [307](1997.04)

492. 地方からの報告：岡山県：石川県：子どもに安全な居場所を確保する放課後児童クラブのいま (p.24-28)
493. 大きく広がれ、子育て仲間の輪！ 育児サークルサミット 開催：[福岡県] / 浜砂圭子 (p.31-34)

こども未来 [311](1997.08)

特集：父親のなすべきこと

494. 今、家庭に求められているのは「父性」：林道義・東京女子大教授に聞く「父親の役割」 / 林道義, 平田圭子 (p.4-9)
495. 新しい父親像を求めて：ゆとりをもたらす父親の育児参加 / 渡辺秀樹 (p.10-11)
496. 子どもの問題行動を変え得る父親の存在 / 岡田隆介 (p.12-13)
497. 父親は仕事中心の生き方の見直しを / 柏木恵子 (p.14)

こども未来 [312](1997.09)

特集：児童虐待にどう対処するか

498. 広がる児童虐待の概念 / 庄司順一 (p.4-6)
499. 相談件数が八年間で倍増児童虐待の現状 / 甘楽昌子 (p.7-9)
500. 欠かせない被虐待児童への精神的支援 / 奥山眞紀子 (p.10-12)
501. 法律で守る子どもの安全 / 磯谷文明 (p.13-14)

産業教育 [47-7](1997.07)

502. 男女で学ぶ家庭科の実践と成果 / 進野マリコ (p.34-37)

四国大学紀要A人文・社会科学編 [7](1997)

503. 高校生のセクシュアリティに関する研究：性意識及び性役割意識の視点から / 赤尾泰子, 本村汎 (p.45-57)
504. 高等学校における福祉教育の意義とそのあり方に関する考察 / 上田房子, 阿部学 (p.187-208)

思想 [872](1997.02)

505. ハンナ・アレントとフェミニズム：「闘争の場」としての政治 / 岡野八代 (p.102-126)

思想 [878](1997.08)

506. 生命と権利のディスコース：アメリカの中絶論争を読む / 荻野美穂 (p.76-100)

自治研究 [73-3](1997.03)

507. ドイツ憲法判例研究(51)：男性のみに消防奉仕活動・消防活動負担金を義務づける州法の合憲性 / ドイツ憲法判例研究会 (p.123-130)

自治研究 [73-5](1997.05)

508. 福祉オンブズマンの制度設計とその運用(上)一：福祉オンブズマンの制度設計とその運用(上) / 大橋洋一 (p.90-103)

自治研究 [73-6] (1997.06)

509. 福祉オンブズマンの制度設計とその運用(下) / 大橋洋一 (p.69-86)

自治研究 [73-9] (1997.09)

510. ドイツ憲法判例研究(五七) / 青柳幸一, ドイツ憲法判例研究会 (p.114-120)

視聴覚教育 [51-3] (1997.03)

511. マルチメディア利用の対話型遠隔講座「父親の子育て・自分探し」 / 佐多正子 (p.12-15)

視聴覚教育 [51-5] (1997.05)

512. 対談:「生きる力」を育てる授業、教育を考える / 土橋永一, 嶋野道弘 (p.8-15)
513. 児童のメディア活用能力育成に関する研究:メディア教育のカリキュラムと実践1:子どもたちに豊かなメディア活用能力を / 星野裕司, 平沢茂 (p.40-45)

視聴覚教育 [51-6] (1997.06)

514. 「視聴覚教材を製作して35年!」 / 北沢杏子 (p.5-7)
515. 「都道府県生涯学習情報提供システムの高度化策について」(審議のまとめ) / 文部省生涯学習局学習情報課 (p.40-45)

児童心理 [51-1] (1997.01)

- 特集:傷つきやすい子
516. 傷つくのは、子どもにとっていいことか / 清水將之 (p.10-15)
517. 傷つきやすい子の心理 / 織田尚生 (p.1-9)
518. トラウマの深層心理 / 妙木浩之 (p.16-22)
519. 傷つきやすい子のもつ強さ:おとぎ話の心理分析から / 矢吹省司 (p.23-29)

柔軟な心を育てる家庭

520. 子どもの心を傷つける親 / 関川紘司 (p.106-110)
521. アサーティブな親子関係をつくる:自己主張の工夫 / 菅沼憲治 (p.111-115)
522. 母と子の精神分析 1:すぐに傷つく子ども / 小此木啓吾 (p.127-134)

児童心理 [51-2] (1997.02)

- 特集:だらしのない子
523. 「ルーズ・ファッション」の心理:集合行動とメディア / 中島純一 (p.113-117)
524. 母と子の精神分析 2:だらしのない子の親子関係 / 小此木啓吾 (p.128-135)

児童心理 [51-3(臨増)] (1997.02)

- 特集:思春期の心理と行動:「むずかしい年ごろ」とどうつきあうか
525. 思春期が人生のなかでもつ意味:自分探しの原点 / 福富護 (p.3-12)

児童心理 [51-4] (1997.03)

- 特集:個性を育てるしつけ
526. 現代日本文化の中のしつけ:子どもも教師も、心の育つ有為な体験や学習を / 金山宣夫 (p.36-41)
527. 成熟するとはどういうことか:個性の見方の文化比較 / 田村毅 (p.42-47)

528. 母と子の精神分析 4:個性を育てる / 小此木啓吾 (p.130-136)

児童心理 [51-5] (1997.04)

- 特集:集団になじめない子
529. みんなと遊べる子を育てる家庭:共感性とユーモアを育てる親子関係 / 上玉啓子 (p.99-104)
530. みんなと遊べる子を育てる家庭:ひとりっ子の友だち関係:きょうだいの存在と親の養育態度はどのように影響するか / 本郷一夫 (p.105-109)
531. みんなと遊べる子を育てる家庭:人づきあいが下手な親・上手な親:子どもへの影響を考える / 後藤晶子 (p.110-114)

532. 母と子の精神分析 5:劣等感の心理 / 小此木啓吾 (p.127-133)

児童心理 [51-7] (1997.05)

- 特集:劣等感をのりこえる
533. 男の子の劣等感・女の子の劣等感 / 國眼眞理子 (p.37-41)

534. 母と子の精神分析 7 : 集団になじめない子どもとその父母 / 小此木啓吾 (p.127-134)

社会運動 [202] (1997.01)

535. 新春座談会 : 生活クラブとはなにか : 『「生活者」とはだれか』をめぐって / 天野正子 [ほか] (p.2-27)
536. 「南」からの人権民衆レポート第48回 : グアテマラの輸出加工産業と女性労働者 / 伊従直子 (p.51-53)

社会運動 [203] (1997.02)

537. ヨーロッパ通信 : 第3回 : 新しい知のスタイルをもとめて : スウェーデンにおける “ ジェンダー ” 研究 / 里深文彦 (p.18-21)

社会運動 [205] (1997.04)

538. セックス産業にみる南北関係 / ジェレミー・シーブルック (p.42-45)

社会運動 [206] (1997.05)

539. 「南」からの人権民衆レポート第52回 : インドにおける「構造調整」 : 労働力の女性化と組織化の戦略 / 伊従直子 (p.30-33)

社会運動 [207] (1997.06)

540. 生活者について考える : 21世紀の「生活者」たちへ : 生活クラブ-そのバックグラウンド、スタイル、闘争と自負 / 岩根邦雄 (p.2-13)
541. 私の歩いてきた道 : 私を育てた総評と三池のヤマ / 野村かつ子 (p.14-22)
542. 「南」からの人権民衆レポート第53回 : 経済のグローバル化と女性 : フィリピンの現状から / 伊従直子 (p.32-35)

社会科学論集 [60/61] (1997.03)

543. イギリス協同組合運動におけるジェンダー摩擦 (1) : 女性協同組合ギルドの思想と活動一八八三年-一九二一年 / 水田珠枝 (p.1-17)

社会教育 [52-1] (1997.01)

544. インタビュー : 櫻井修さんに聞く : 学校から「合校」へ (p.4-7)

特集 : 企業等の学習装置化に向けて

545. 地域文化の発展に寄与する新しい企業活動の創造と人材開発担当者の生涯学習観 / 井口哲夫 (p.10-15)
546. 企業の消費者教育情報の発信 / 長島広太 (p.16-18)

547. 「生涯学習社会への変化の指標 生涯学習の基本政策に関する国際セミナー (NIER-UIE International Seminar on Transition towards Lifelong Learning) の報告より」 / 鬼頭尚子 (p.42-47)

社会教育 [52-2] (1997.02)

特集 : マルチメディアで生涯学習

548. 父親の子育て参加・自分探し3回連続講座 : 新教育メディア研究開発事業 / 三沢昌子 (p.36-37)
549. 情報NPOが地域をつくる : 宮前区子育てネットワーク事情 / 三沢昌子 (p.38-41)

社会教育 [52-3] (1997.03)

特集 : 事業を起こす起業の学習

550. 女性起業家育成きもと塾の取り組みから : 生涯学習で「資本」の構築を図る / 工藤日出夫 (p.10-13)
551. 固定的職業観の変化 多様な生き方 : ニュービジネスを成功させていった人達に共通する要素 人間的魅力と「起業をするためのチェックポイント」 / 松本寿吉郎 (p.14-16)
552. キャリアデザインを社会教育の場で : 生涯学習の視点からの進路指導 / 江上範博 (p.17-19)
553. 自前講座で三割起業 : 横浜女性フォーラム / 三沢昌子 (p.20-21)
554. まちづくりの一環としての起業講座 : 足立区女性総合センター / 三沢昌子 (p.21-23)
555. 「女性のためのニューワーク創業支援講座」 : ドーンセンター(大阪府立女性総合センター)における取り組み (p.24)
556. 生涯学習プログラムの研究第55回 : 市民グループに公開講座の委託 : 茅ヶ崎市(神奈川県)における学習者の拡大方策 / 岡本包治 (p.38-41)

社会教育 [52-4] (1997.04)

特集 : ボランティアコーディネーター

557. 学習過程としてのボランティア活動 : 学習支援からまちづくり活動まで / 岡本包治 (p.8-11)
558. ボランティアコーディネーター的な社会教育職員たち : さまざまな実践活動から / 矢吹正徳 (p.12-13)
559. 施設ボランティアが考えていること : コーディネーターはすぐれてボランティアである / 大久保邦子 (p.13-14)
560. 推進だけでなく再編、中止の行政へ : 全国ボランティア研究会 / 三沢昌子 (p.16-17)
561. ボランティア指導者を「指導」できるのか : (財)埼玉県民活動総合センター「市民講師ゼミナール」の講師として / 西村美東士 (p.18-26)
562. ボランティアの課題 / 蛭田道春 (p.28-31)

563. 社会教育の場でライフパニック講座開設を：防災をテーマとした市民活動と地域のネットワークづくり：2月9日開催「震災シンポジウムイン浜松」より / とよた啓子 (p.32-34)

社会教育 [52-5] (1997.05)

特集：第4の領域とNPO

564. 市民公益活動(NPO)と生涯学習：住民と行政の連携の可能性 / 瀬沼克彰 (p.12-15)

社会教育 [52-6] (1997.06)

特集：2足のわらじ論

565. 二足のわらじとはなんだろう? / 鈴木隆 (p.6-10)
 566. 共済の生涯学習：社会人大学院の課題 / 白石克己 (p.12-14)
 567. 第二回世界生涯学習会議報告：人間の潜在力への投資のためのストラテジーを模索 / 澤野由紀子 (p.46-50)

社会福祉研究 [68] (1997.04)

568. 高齢者の権利擁護をめざして：「日本高齢者虐待防止センター」の電話相談活動 / 田中荘司 (p.71-75)

社会福祉研究 [69] (1997.07)

569. 少子・高齢社会の総合福祉政策の課題：スウェーデン・モデルを超えて / 丸尾直美 (p.2-17)
 570. 児童福祉法改正をめぐる論点と課題 / 浅井春夫 (p.26-39)

周産期医学 [27-6] (1997.06)

特集：生殖医療の最近の進歩と周産期医療

571. ARTによる多胎が周産期医療に及ぼす影響 / 小川雄之亮 (p.809-812)
 572. 生殖補助医療技術(ART)により出生した児の管理 / 多田裕 (p.813-816)
 573. 生殖医療による多胎と減数手術 / 田原隆三, 藤間芳郎, 矢内原巧 (p.821-827)
 574. 生殖医療と倫理問題 / 我妻堯 (p.835-839)

周産期医学 [27-7] (1997.07)

特集：周産期におけるチーム医療

575. 新生児医療と地域保健所の連携 / 松田博雄 (p.905-909)
 576. 助産所間の連携 / 斉藤悦子 (p.911-915)
 577. 英国における母子精神保健の先進的チーム医療 / 岡野禎治, 野村純一 (p.969-972)
 578. 育児不安とチーム医療 / 南部春生 (p.979-983)

自由と正義 [48-1] (1997.01)

特集：行政情報の公開：法制の展開

579. 情報公開法と「知る権利」：情報開示請求権の基礎づけをめぐる / 右崎正博 (p.106-114)
 580. 「説明責任」(アカウントビリティー)と知る権利：情報公開法要綱案の目的規定について / 土生照子 (p.115-125)

ジュリスト [1105] (1997.02)

特集：NPO法の検討

581. 座談会：NPO法の検討：市民活動団体の法人化について / 雨宮孝子[ほか] (p.4-29)
 582. いわゆるボランティア団体法人をめぐる課税関係 / 佐藤英明 (p.30-38)
 583. 欧米主要国のNPO法制と税制 / 石村耕治 (p.39-49)
 584. 公益的団体における公益性と非営利性 / 能見善久 (p.50-55)
 585. 公益的団体の財産：残余財産の帰属という視点から / 中田裕康 (p.56-64)

586. 海外法律情報：ドイツ：性犯罪者に対する刑罰強化の動き / 齊藤純子 (p.120)

ジュリスト [1107] (1997.03)

特集：情報公開法要綱案をめぐる

587. 鼎談：情報公開法要綱案をめぐる基本的問題 / 小早川光郎, 戸波江二, 堀部政男 (p.4-22)
 588. 開示請求権の位置づけについて / 棟居快行 (p.24-30)
 589. 対象文書と行政文書の管理 / 藤井昭夫 (p.31-37)
 590. 個人情報の不開示 / 宇賀克也 (p.38-44)
 591. 法人等の情報 / 秋山幹男 (p.45-50)
 592. 審議検討情報の不開示 / 藤原静雄 (p.51-56)
 593. 情報公開法と司法審査 / 常本照樹 (p.57-62)
 594. 情報公開法要綱案と自治体の情報公開条例 / 川上宏二郎 (p.63-68)
 595. 情報公開法要綱案 (p.69-72)

ジュリスト [1112] (1997.06)

596. インターネットとわいせつ犯罪 / 前田雅英 (p.77-85)

ジュリスト [1113 (臨増)] (1997.06.10)

特集：平成8年度重要判例解説

597. 昇格・昇進における男女差別と昇格・昇進請求権 芝信用金庫事件 / 黒川道代 (p.200-202)

ジュリスト [1114] (1997.06)

598. 海外法律情報：イギリス：「ストーカー法」の制

定：1997年ハラスメント防止法 / 齋藤憲司
(p.105)

ジュリスト [1116] (1997.07)

特集：男女雇用機会均等法の改正

599. 雇用機会均等法・労働基準法の改正と概要 / 安枝英のぶ (p.39-50)
600. セカンド・ステージを迎える男女雇用平等法制 / 朝倉むつ子 (p.51-57)
601. 改正均等法・労基法をどう生かすか：働く女性の立場から / 中島通子 (p.58-65)
602. 今回の均等法・労基法等改正について：企業側弁護士立場から / 木下潮音 (p.66-71)

ジュリスト [1117] (1997.08)

特集：コンピュータ・ネットワークと法

603. コンピュータ・ネットワーク時代における著作権施策の展開 / 坂東久美子 (p.126-131)
604. 労働者の個人情報保護をめぐる状況について / 大塚崇史 (p.149-154)
605. 海外法律情報：ドイツ：マルチメディア法、連邦議会で可決 / 齋藤純子 (p.173)
606. 海外法律情報：中国：医療事故をめぐる紛争処理 / 岡村志嘉子 (p.174)

ジュリスト増刊.新世紀の展望 [1] 変革期のメディア
(1997.06)

通信メディア・コンテンツの課題

607. 青少年条例とテレクラ営業規制 / 秋吉健次 (p.178-187)

表現の自由論の現況

608. 表現の自由理論の現在-日本 / 松井茂記 (p.221-227)
609. 表現の自由論の現状：アメリカ / 紙谷雅子 (p.228-231)
610. 苦情申立制度と放送の自由：イギリス・放送苦情委員会の経験 / 田島泰彦 (p.232-236)
611. 表現の自由論の現況：ドイツ / 鈴木秀美 (p.237-241)
612. フランスにおけるマス・メディアの自由 / 大石泰彦 (p.242-246)
613. 表現の自由論の現況：スウェーデン / 山田健太 (p.247-252)
614. 韓国における表現の自由の現況 / 金哲洙 (p.253-257)

マスメディア・コンテンツの課題

615. 報道における「積極的公正中立主義」 / 渡辺武達

(p.263-266)

616. メディアと女性の人権 / 村松泰子 (p.272-276)

生涯フォーラム [1166] (1997.01)

617. 日本女性会議 96うつつのみや：「宣言」どのように実践 / 齋藤美和子 (p.26-30)

生涯フォーラム [1167] (1997.02)

618. 林業家 山縣睦子さんにきく：都会の女性と情報交換ネット作り森の大切さ訴える (p.26-30)
619. 学習・女性・芸術の複合施設：さわやかちば県民プラザ千葉県柏市に誕生 (p.42-45)

生涯フォーラム [1171] (1997.06)

特集：「私の生涯学習 下」

620. 働きながら経営学修士号：米国出向のチャンス生かす / 岡崎志朗 (p.6-8)

情況 [8-3] (1997.04)

特集：記憶をめぐる論争「自由主義史観」という病

621. 「従軍慰安婦問題」の教科書記載によって精神的にいじめさせられる「日本人」とは、だれのことが? / 江原由美子 (p.27-34)
622. いわゆる「自虐史観批判」の詭弁性について：未来をみつめる学生への手紙 / 姫田光義 (p.35-49)
623. 「教科書論争」を斬る / すが秀実, 高澤秀次 (p.50-66)

情況 [8-4] (1997.04)

特集：沖縄から訴える

624. 軍隊は「女性」の敵です：集団自決・強姦と沖縄の女性 / 宮城晴美 (p.109-113)

小児保健研究 [56-1] (1997.01)

625. 育児における父親の役割と父親への援助に関する研究：その1 子どもの心理的問題と父親の役割との関連性 / 吉田弘道[ほか] (p.20-26)
626. 育児における父親の役割と父親への援助に関する研究：その2 父子三者関係と父親の役割との関連性について / 吉田弘道[ほか] (p.27-33)
627. 幼稚園児を持つ母親の母性性の意識と行動に関する研究(第1報)：自我状態から見た母性性の特性 / 石崎優子, 織田正昭, 日暮眞 (p.34-42)
628. 幼稚園児を持つ母親の母性性の意識と行動に関する研究(第2報)：母親の年齢, 就業, 家族形態, 子どもに関する悩みとの関連 / 石崎優子, 織田正昭, 日暮眞 (p.43-48)
629. 父親の育児に関する学習の場への参加と母乳継続等との関連に関する検討 / 二宮恒夫, 出口洋江, 尾

- 方美智子 (p.49-53)
630. 乳児をもつ母親の育児満足感の形成要因3：父親の仕事中心志向と家庭中心志向の効果 / 大藪泰, 前田忠彦 (p.54-60)
631. 親子・友人関係が中学生の主観的健康度に及ぼす影響：思春期の子供を持つ親へのアプローチに向けて / 中山貴美子, 藤内修二, 北山秋雄 (p.61-68)
632. 新生児の授乳開始時期と生後1か月の母乳哺育率 / 飯塚忠史[ほか] (p.84-87)

- 昭和女子大学女性文化研究所紀要 [19] (1997.01)
633. 女性心理学の系譜と課題3 / 新田健一 (p.1-13)
634. 近代家族の行方：育ち合う実存的平等家族に向けて / 掛川典子 (p.15-32)
635. ブラック・フェミニズム：1960年代以降のアメリカ女性運動を通して / 吉原令子 (p.33-46)
636. 「山椒太夫」の成立：母娘の物語から妹弟の物語へ / 塩谷千恵子 (p.47-62)
637. インディアン問題：超絶主義的アプローチ：Margaret Fuller：Summer on the Lakes, 1843 (1991)の再版に際して / 上野和子 (p.63-76)
638. お茶の水女子大学ジェンダー研究センター：原ひろ子・前田瑞枝・大沢真理編「アジア・太平洋地域の女性政策と女性学」合評会 / 伊藤セツ (p.77-84)

- 助産婦 [51-1] (1997.02)
- 特集：若手助産婦の開業への道とその活動
639. 今、助産院がおもしろい：時代は助産婦の味方です / 井上博子 (p.6-8)
640. 助産婦職存続の鍵は、助産ケアの質 / 高橋律子 (p.9-11)
641. 人と人が出会い、つながり合う空間、命の誕生の空間 / 高橋小百合 (p.12-14)
642. 助産婦職の真髄を実践できる開業活動：勤務助産婦の皆さんへのメッセージ / 前田弘子 (p.15-19)
643. 実践から評価までの協力体制：開業助産婦ネットワークの試み / 橋本初江 (p.20-22)
644. 修士号を持つ助産婦の開業：臨床・教育・研究はどれも捨て難い!! / 松原まなみ (p.23-26)
645. 女性実業家としての助産婦 / 新野由子 (p.32-35)
646. 茨城県内の産育風習：その存在意義を考える / 塚越智美, 柴田智世, 高橋知子 (p.47-49)

- 助産婦 [51-2] (1997.05)
- 特集：病院勤務助産婦のジレンマ
647. 助産婦の専門性とマンパワー / 津田万寿美 (p.24-26)
648. 開業助産婦との連携：賛育会病院の試み / 下地亮

- 子 (p.44-46)
649. 赤ちゃんを亡くされた方のためのサポート・グループSIDS家族の会 / 東海林郁子 (p.50-51)

- 女性学評論 [11] (1997.03)
- 特集：歴史のなかの女性
650. レスタ伯夫人の家計簿：13世紀イングランドの内助の功 / 朝治啓三 (p.1-28)
651. 額田王覚書：大海人皇子にとっての「むらさきのにほへる妹」 / 北島徹 (p.1-22)
652. 明治の「生意気娘」たち(下)：「女学生」と小説 / 小関三平 (p.57-83)

- 女性教養 [531] (1997.01)
653. 居場所としての家族：子どもを受け入れ支えるとは / 本間友巳 (p.3-6)
654. 子どもへの暴行防止教育プログラム：CAPの活動 / 岡村聡子 (p.8-9)
655. 子育てネットワーク奈良：「子どもと共に生きること」が喜びとなるために / 渡辺ひろみ (p.10-11)
656. こ・の・ひ・と：大西珠枝さん (p.13)

- 女性教養 [532] (1997.02)
657. 都立高校における男女平等教育：「上野高校女子卒業生進路追跡調査」から / 賀谷恵美子 (p.8-9)
658. 国分寺の女性問題講座：戦後50年 女は本当に変わったのか / 百瀬道子 (p.10-11)

- 女性教養 [533] (1997.03)
659. 家庭科男女必修の実態と今後の課題 / 河野公子 (p.3-6)
660. 夢をかたちに：起業した女性たち / 渡辺敦子 (p.8-9)
661. ムーブフェスタ '96：市民企画事業 / 香川稔子 (p.10-11)

- 女性教養 [534] (1997.04)
662. 女性の職業意識の形成・変化 / 小杉礼子 (p.3-6)
663. 女子学生による女子学生のための就職情報誌：「私たちの就職手帖」 / 野澤理和 (p.8-9)
664. 人間らしい労働と生活を求めて：関西女の労働問題研究会の20年 / 伍賀借子 (p.10-11)

- 女性教養 [535] (1997.05)
665. 動き始めた「教育にジェンダーの視点を！」 / 亀田温子 (p.3-6)
666. 高齢社会に向けて「集住」を考える：D&Dヒューマンネットワーククラブ / 山木香代 (p.8-9)
667. 共に考え、共にあゆむ：女性学学習グループ「あゆ

む」の活動 / 今野悦子 (p.10-11)

女性空間 [14] (1997.03)

特集：女が自分を語る時

668. 日記 自叙伝 伝記小説 / 西川祐子 (p.6-31)
669. アンナ・ド・ノアイユの「我が生涯の記」について / 白土康代 (p.32-40)
670. どのような「私」がどのような女を語るのか? : コレットの「さすらいの女」について / 小野ゆり子 (p.41-51)
671. 「書くこと」と「愛すること」: 「愛人」への道 / 佐藤浩子 (p.52-63)
672. セヴィニエ夫人が「自分」を語る時 / 塩川浩子 (p.64-68)
673. 19世紀、フランス女性はどうに自分を語り始めたか / 長谷川イザベル; 小沼静子訳 (p.69-75)
674. ラマルチーヌ夫人「日記」: 信仰に生きた優雅な女性 / 松岡淑子 (p.75-79)
675. ジョルジュ・サンド「我が生涯の歴史」: 良き母、ジョルジュ・サンド / 中森厚子 (p.80-84)
676. マリー・ダグー「回想、日記、思い出」: 恋愛と自立 / 米島好子 (p.84-88)
677. ジュヌヴィエーヴ・ブレトン「日記」: 一少女の心の軌跡 / 小沼静子 (p.88-92)
678. ジャンヌ・ブーヴィエ「回想」: 女子労働者の証言 / 日置久子 (p.92-95)
679. ジェルメーン・タイユフェール「思い出すままに」: 名声の陰の卑下とためらい / 小林緑 (p.96-99)
680. イヴォンヌ・リュウ「イヴォンヌの故郷で」: プルターニユ地方のある農婦の回想録 / 加藤直子 (p.100-104)
681. 高齢社会と「女性に対する暴力」 / 前田美也子 (p.107-112)
682. イスラームと女性 / 鳥居千代香 (p.113-114)
683. 私の見てきた日本の政治・世界の女性 / 久保田真苗 (p.115-120)
684. フィリピンの女性たち: 法と現実 / 神尾真知子 (p.121-129)
685. フランスの女性研究の現状 / 新井文子 (p.130-135)

女性と労働21 [5-19] (1997.02)

特集：均等法の改正3

686. 「規制緩和」の中の女性労働: 21世紀シナリオに求められるもの / 竹中恵美子 (p.6-17)
687. 規制緩和と均等法改正: 女子保護撤廃で女性労働はどう変わるか / 林弘子 (p.18-28)
688. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保等のための労働省関係法律の整備に関する法律案の概要 / 労働省 (p.30-38)

689. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保のための法的整備について(案) / 婦人少年問題審議会婦人部会公益委員 (p.39-41)
690. 雇用の分野における男女の均等な機会及び待遇の確保のための法的整備について(建議) / 婦人少年問題審議会 (p.42-45)
691. 「婦人少年問題審議会の建議」について / 日本労働組合総連合会 (p.46-47)
692. 均等法および労働基準法の改正についての要請書 / 国際婦人年連絡会 (p.51-52)
693. 婦人少年問題審議会婦人部会「審議状況」に対する意見 / フォーラム・「女性と労働21」 (p.53-56)
694. 「女子学生の就職問題に関する特別相談窓口」の利用状況(96年6-10月分): 相談件数は昨年比に倍増 / 労働省婦人局 (p.65-68)
695. 週40時間労働制実施に係る特別措置について(報告) / 中央労働基準審議会 (p.60-64)
696. 母性健康管理指導基準の改正: 平成8年4月 (p.69-72)
697. 平成8年版 働く女性の実情(概要) / 労働省 (p.73-83)

女性と労働21 [5-20] (1997.03)

698. 組合役員に女性を増やす / 高島順子 (p.4-5)
699. 均等法改正法案に関する意見 / フォーラム・「女性と労働21」 (p.6-12)
700. ILO家内労働条約及び勧告の採択 / 藤井紀代子 (p.13-21)
701. ILOパートタイム労働条約と日本のパートタイム労働 / 山岡照子 (p.22-37)

特集：構造改革・規制緩和

702. 雇用・労働の分野についての規制緩和 / 行政改革委員会規制緩和小委員会 (p.39-42)
703. 自由で活力のある労働市場をめざして / 経済審議会行動計画委員会 (p.43-56)
704. 新時代の「日本的経営」挑戦すべき方向とその具体策(概要) / 日本経営者団体連盟 (p.57-65)
705. 社会保障構造改革の方向(中間まとめ) / 社会保障関係審議会会長会議 (p.66-78)
706. 家内労働に関する条約(第177号)(仮訳) (p.108-115)

女性のひろば [215] (1997.01)

707. 男らしさを脱して: 新しい男性たちの時代へ / 井上吉郎 (p.50-53)

女性のひろば [216] (1997.02)

708. 歴史の真実に光をあててこそ：「占領軍にたいする性的慰安施設」と政府の責任：吉川春子さんに聞く (p.24-29)

709. 日本の母親は子育てが楽しくない? 国際比較調査から考える：二宮厚美さんに聞く (p.30-35)

特集：女性の深夜業解禁を考える

710. 技術職の女性の働かされ方は... (p.36-38)

711. 「新婚なのに更年期障害」という二十代女性も... / 上野節子 (p.39-41)

712. 無法職場づくりへ道ひらく「女子保護」撤廃 / 山根直美 (p.48-53)

713. 健康を守るためにも夜勤を減らそう：広瀬俊雄さんに聞く (p.42-47)

女性のひろば [218](1997.04)

714. 知っていますか? こんなただ働き：業者婦人の地位向上をもとめて / 阿字地千佳子 (p.102-105)

女性のひろば [220](1997.06)

特集：セクシュアル・ハラスメントなくして：声あげる女性たち

715. セクハラ事件簿から / 杉井静子 (p.46-52)

716. 女性労働者は体までなんて!!：被害者の女性に聞く (p.53-57)

717. 職場における セクシュアル・ハラスメント：東京、大阪、福岡の調査から (p.58-59)

女性法律家協会会報 [35](1997.03)

特集：女性の労働継続を可能にする法制度にむけて：今、再び職場・家族責任の両立を問う

718. 男女雇用機会均等法・女子保護規定に関する意見書：「婦人少年問題審議会婦人部会における審議状況に対する意見書」 / 日本女性法律家協会 (p.3-10)

719. 意見書提出の経過と報告 / 横溝正子 (p.9-10)

720. 女性労働をめぐる現状と課題：均等法の見直し問題を中心に / 奥山明良 (p.11-21)

721. スウェーデンにおける女性の労働環境 / 岡沢憲英 (p.22-31)

722. 保育をめぐる法制度と現状・今後の課題 / 富岡恵美子 (p.32-36)

723. 川崎市民オンブズマンと育児休業法 / 大西千枝子 (p.37-38)

724. 権利としての介護サービス / 眞継寛子 (p.38-41)

725. 女性検事の増加に関する2~3の考察 / 藤村輝子 (p.65)

726. エジプト・アラブの家族について / メルヴァット・タラウィ (p.68-71)

727. 司法制度をめぐる問題：女性法曹に期待する / 三ヶ月章 (p.72-78)

728. 移りゆく家族と家族法：国際家族法学会の活動を通して / 松嶋由紀子 (p.79-81)

729. 東京都男女平等推進視察旅行雑感：ノルウェーとオランダを訪ねて / 宇田川濱江 (p.84-86)

730. 他団体との交流記録：北京宣言・行動綱領の実効性を求めて / 松浦千誉 (p.87-90)

聖カタリナ女子短期大学紀要 [30](1997.03)

731. 「キッチン」のテキストで 家族 を考える / 酒井一郎 (p.15-28)

732. キリスト教信仰と社会福祉：「生活文化福祉」の視点より / 矢野正樹 (p.29-42)

733. 保育者の子ども理解に関する一試論 / 中島紀子 (p.43-52)

聖カタリナ女子大学研究紀要 [9](1997)

734. 自助グループとは何か / 飯田栄 (p.127-140)

735. 地域福祉とボランティア活動 / 足利義弘 (p.63-72)

736. 「母子家族」への支援意識と母子寮：鹿児島県児童福祉施設従事者に対する調査研究を中心に / 長谷川彰, 細井雅生 (p.73-91)

性と生の教育 [8](1997.01)

特集：Body is Good：からだっていいな

737. やせることで「幸せ」が見えてくるジェンダーの刷り込み / 宮淑子 (p.6-9)

738. 「このからだがあってこの私」って思うように援助したい / 河野美代子 (p.10-13)

739. 鏡の中の自分を本当に好きになる旅を終えたときに / 小森淳子 (p.14-17)

740. 自分を商品化する子どもは何を求めて彷徨しているのか!? / 中井良次 (p.18-21)

741. Report 子どもの商業的性的搾取に反対する世界会議：世界的な億万ドルの産業になっている! / ビヤネール多美子 (p.22-25)

742. 編集長対談：性器を変えなければ他人のからだで生きている感じ / 虎井まさ衛, 山本直英 (p.80-87)

性と生の教育 [9](1997.03)

特集：赤ちゃんはどこから?

743. 産む・産まない・産めないにかかわらず大切なからだ / 丸本百合子 (p.6-9)

744. 座談会：もしそれが可能なら、男は妊娠を望みますか? / 綿引光友[ほか] (p.20-28)

745. 厚生省の人口政策と母子保健 / 芦野由利子 (p.52-55)
746. 教科書に見る妊娠・出産・育児 / 田中弘子, 田中未緒 (p.68-71)
747. 連載 ビギナーのための実践講座 9 : 産む、産まない、産めない : 特に産めないことの学習について / 村瀬幸浩 (p.92-95)
748. 「同性愛差別裁判」への意見書全文 : この2月6日に証人として述べたいこと / 山本直英 (p.106-109)

性と生の教育 [10] (1997.05)

特集 : あれも家族、これも家族

749. 座談会 : ありのままの自分を出せてほっとできたらいいいね / 佐藤弘道[ほか] (p.6-12)
750. 女も男も「家族すること」から自由になろうよ! / 深江誠子 (p.14-17)
751. 少女マンガに見る家族 : 安心して帰っていける場所 / 藤本由香里 (p.26-29)
752. 映画に見る家族 : 性的家族カタログ / 奥田継夫 (p.30-33)
753. 文学に見る家族 : 家族の肖像 : 女と家族、男と家族... / 高柳美知子 (p.34-37)
754. 理想的な家族像の設定は不正で抑圧を生みだす / 金城清子 (p.60-63)
755. 夫婦別姓と家族 / 木村晋介 (p.64-65)
756. 先史時代から現代 : 何が変わってきたか / 鈴木正弘 (p.66-69)
757. 編集長対談 : 性を武器に「請求書」を出していく社会でいいの? / 福島瑞穂, 山本直英 (p.82-88)
758. 青少年を守るのは 性的自己決定能力 育成しかない : 東京都青少協の「処罰規定・中間答申」への反論 / 山本直英 (p.110-111)

生活研究 [28-1] (1997.02)

759. 農山漁村女性対策の変遷と展望 : 山口県における事例 : 地域活動情報 / 岡村恵美子 (p.12-13)
760. 座談会 / 女性を核とした農業・農村の活性化 : 元気ある女性が拓く新農業 : 農業委員・JA役員の場にも登用 / 永江弘康[ほか] (p.3-11)

生活研究 [28-2] (1997.03)

761. 「生涯現役」の場を創造 : 上福井生活改善グループのライフスタイル / 天野寛子 (p.3-10)
762. 刈谷市における家族経営協定の普及・推進状況について / 反町俊哉 (p.11)

生活の設計 [188] (1997.02)

763. 草の根活動を訪ねて : 女性の社会参加に取り組ん

で、個性豊かな活動を展開 : 東京渋谷区 / 代々木貯蓄生活設計普及モデル地区 / 野上圭 (p.68-73)

生活文化研究 [8] (1997.03)

764. 「わたし自身」のフェミニズムに向けて : わたしたちのセミナーの記録 / 久田絢子 (p.111-120)

青少年問題 [44-2] (1997.02)

765. 現代の子どもと家庭環境 (p.4-9)
766. サルの母離れと子離れ / 南徹弘 (p.10-15)
767. 児童相談所から見た最近の親子関係 / 甘楽昌子 (p.16-23)
768. 子どもの虐待防止センターから見える親子関係 / 関戸克子 (p.24-29)
769. 親孝行に関する国際比較調査 / 日本青少年研究所 (p.34-39)
770. 「ハートフル父親講座」 : 父親の家庭教育参加支援事業職場内家庭教育講座の開設 / 釜石市教育委員会社会教育課 (p.40-45)
771. 2778組の親子の絆は波をこえて : 茨城県親子ふれあいの船 / 横山典男 (p.46-51)
772. 少年自然の家の親子ふれあい事業 : 国立日高少年自然の家の学校週5日制対応事業 / 穴澤光一 (p.52-56)

青少年問題 [44-3] (1997.03)

773. 有害で搾取的な労働を強いられる子どもたち : 「1997年世界子供白書」より / 澤良世 (p.36-41)
774. 子どもと地域社会にアクセスする児童館 / 鈴木雄司 (p.42-47)
775. 南アフリカの十代の黒人の妊娠問題 / 黒川慧 (p.52-55)

青少年問題 [44-5] (1997.05)

776. 戦後幼児保育思想を考える : 蘇生からえた遺産 / 阿部真美子 (p.22-27)
777. 各国の「子どもとテレビ」をめぐる動向 : 多様化の中での変容と課題 / 小平さち子 (p.28-35)
778. 日本の青少年の生活と意識 : 青少年の生活と意識に関する基本調査結果からみて / 福島浩 (p.36-43)
779. イギリスにおける性被害児童の保護について : 児童の商業的性的搾取に反対する世界会議を契機として / 横山潔 (p.44-47)

青少年問題 [44-6] (1997.06)

780. 若年女子の就職とキャリア形成の問題点 / 小杉礼子 (p.4-9)
781. 新卒者の就職状況と対策 / 労働省職業安定局業務調整課 (p.36-43)

聖路加看護大学紀要 [23](1997)

782. 思春期性保健IECワークショップに参加して：中南米カリブ海諸国におけるリプロダクティブ・ヘルス/ライツへの挑戦/加納尚美[ほか] (p.69-80)
783. 諸外国の変動する看護システムに関する研究/小島操子[ほか] (p.49-68)

世界 [630](1997.01)

784. 公的介護保険構想はこうして作られた/栃本一三郎 (p.144-154)
785. 福祉のまちを歩く 第十一回：二四時間・巡回型ホームヘルプサービス/石毛えい子 (p.163-171)
786. 抑圧の儀式/ジュリア・リーブリッチ, デリア・M・リオス; ステファニー・ウェルシュ[撮影] (p.177-184)
787. 異邦人として生きて [上]: アパルトヘイト後の南アから/ナディン・ゴードイマ; 福島富士男訳 (p.326-339)

世界 [632](1997.03)

788. 歴史資料をどう読むか/吉見義明 (p.40-47)
789. セカンド・レイブにほかならない/鈴木裕子 (p.48-53)

特集：生きにくさという問題

790. 「居場所」は必ず見つけられる/川本隆史 (p.102-109)
791. 「援助交際」というムーブメント/河合隼雄 (p.137-148)
792. 「家族解散」という選択：コントロールドラマの終焉に向けて/信田さよ子 (p.149-159)
793. 福祉のまちを歩く：最終回：市民型福祉の展望/石毛えい子 (p.245-252)

世界 [633](1997.04)

特集：自由主義史観批判

794. 対談：50年の闇の中から：「従軍慰安婦」問題を語る/富山妙子, 韓明淑 (p.41-58)

世界 [634(臨増)](1997.04)

20世紀とはいかなる時代だったのか

795. フェミニズムの時代：婦人参政権から性と生殖に関する自己決定権まで/江原由美子 (p.60-63)

地球的問題群

796. 人口問題の本質/加藤久和 (p.150-151)
797. 児童労働/高槻亮 (p.168-169)

798. NGO/岩崎駿介 (p.172-175)

799. 人間開発/高槻亮 (p.178-181)

世界 [635](1997.05)

特集：働き方が大きく変わる

800. 座談会：リストラ定着時代に働き続ける法/設楽清嗣, 伊藤みどり, 川人博 (p.81-93)

801. 「中絶する自由」を脅かすもの：「ル・モンド・ディプロマティック」より/ポール・セスブロン; 奥寺百合子訳 (p.243-248)

802. 性はどこまでわかっているのか/伏見憲明 (p.273-288)

世界 [636](1997.06)

803. 売春斡旋を合法化したオランダ：人間の身体が市場に売り出される：「ル・モンド・ディプロマティック」より/マリー・ヴィクトアール・ルイ; 嶋崎正樹訳 (p.200-204)

世界と人口 [274](1997.01)

804. 象牙の塔からみたカイロ会議/河野綱果 (p.16-20)
805. 優生保護法から母体保護法へ/我妻亮 (p.22-25)
806. 海外の文献から：住民参加型のプロジェクト・新しいジェンダーの視点 (p.30-34)

世界と人口 [275](1997.02)

807. ネパール家族計画事情：女性ボランティアの小さな力/中村みゆき (p.12-15)
808. 中南米のリプロ・ヘルス/ライツへの挑戦/加納尚美 (p.20-22)
809. 海外の文献から：アンメット・ニーズに応える新しい戦略 (p.28-38)
810. 世界の国ぐにの人口：タンザニアの人口(二)/早瀬保子 (p.44-51)

世界と人口 [276](1997.03)

811. リプロダクティブ・ヘルスの流れと日本の取り組み/松本清一 (p.6-20)
812. 人口減少の背景を考える/古田隆彦 (p.22-26)
813. バングラデシュの女性たち：バングラデシュの女性の現状/アーマド・ニース; 世界と人口編集部訳 (p.32-36)
814. 世界の国ぐにの人口：タンザニアの人口(三-完)/早瀬保子 (p.46-52)

世界と人口 [277](1997.04)

815. 人口、ジェンダー、持続可能な開発/ナフィス・サディック (p.6-11)

816. バングラデシュ訪問記：国際ボランティア貯金の活用状況を視察して / 村瀬光一 (p.13-15)
817. 人口・家族計画分野におけるジェンダーの視点 / 竹内百重, 兵藤智佳 (p.26-27)
818. 世界の国ぐにの人口：モルジブの人口 / 大友篤 (p.42-49)
819. 人口統計あらかると3：一九九五年国勢調査：増加する単身世帯 / 川崎茂 (p.50-53)

世界と人口 [278] (1997.05)

820. 少子化と日本人の将来：将来推計人口を読む / 阿藤誠 (p.6-20)
821. 寄生虫予防から家族計画、リプロ・ヘルスへの展開 / 本間由紀夫 (p.22-26)
822. 人口統計あらかると4：一九九五年国勢調査：夫婦のみの世帯の増加 / 川崎茂 (p.56-59)

世界の児童と母性 [42] (1997.04)

特集：福祉と保健・医療の連携をめざして

823. 母子の福祉と保健の連携 / 衛藤隆 (p.2-7)
824. 日本と世界の比較からみる母子保健：アジア諸国の母子保健 / 小山修 (p.8-12)
825. 日本と世界の比較からみる母子保健：世界各国の十代の妊娠、出産、避妊、中絶 / 北村邦夫 (p.13-17)
826. 福祉と保健の連携からみる子育て支援：虐待に対応する機関連携について / 堀木道子 (p.26-29)
827. キーワードからみる母子保健：テレクラ その現実と問題点 / 松宮満 (p.38-40)
828. キーワードからみる母子保健：援助交際の実情と問題点 / 速水由紀子 (p.41-43)
829. キーワードからみる母子保健：思春期を考える / 岡田謙 (p.44-46)
830. キーワードからみる母子保健：アダルト・チルドレン / 飯塚浩 (p.47-49)
831. キーワードからみる母子保健：「公園ジブシー」考 / 平田圭子 (p.50-52)
832. キーワードからみる母子保健：さらりと乗り切る更年期 / 石田雅巳 (p.53-55)
833. 「児童の権利に関する条約」ウオッチング6：少年事件からみる児童虐待問題について / 小笠原彩子 (p.56-59)

世界の労働 [47-2] (1997.02)

834. 家族的責任を有する労働者に関するILO第一五六号条約について：日本の現状と課題をめぐって考える / 大羽綾子 (p.33-39)
835. 海外婦人労働ニュース 128：ひたむきに、したたかに：韓国の女性労働運動 / 多田とよ子 (p.58-61)

世界の労働 [47-3] (1997.03)

836. 海外婦人労働ニュース 129：ゼンセン同盟・韓国繊維労組連盟女性セミナー報告：韓国の雇用平等法と女子保護規定 / 郷野晶子 (p.48-51)

世界の労働 [47-4] (1997.04)

837. ICFTUをめぐる最近の状況 / 小原淑 (p.2-13)
838. 各国の労働時間の現状(上)：ILO 労働条件ダイジェストから / 中野育男 (p.14-21)
839. カナダ雇用衡平法の改正とインパクト / 木村愛子 (p.22-28)
840. EU七か国の失業・社会扶助給付制度の現状分析(中の2)：デンマーク・フィンランド・フランス・ドイツ・イギリス・オランダ・スウェーデン / 佐藤進, 引馬知子 (p.30-43)

大学と学生 [383(臨増)] (1997.03)

841. 短期大学の課題と進路 / 佐久間彊 (p.5-9)
842. 短期大学の現状と改革の方向 / 文部省高等教育局専門教育課 (p.10-17)
843. 短期大学改革の進捗状況 (p.18-42)
844. 高等専門学校の改革に向けて / 春山志郎 (p.45-49)
845. 高等専門学校の現状と改革の方向 / 文部省高等教育局専門教育課 (p.50-55)
846. 高等専門学校の改革の進捗状況 (p.56-61)

大東文化大学紀要・社会科学 [35] (1997)

847. 社会教育における女性の「話し合い学習」の分析 / 板垣葉子 (p.151-172)
848. 日本における企業内教育の改革(4) / 沼口博 (p.173-184)

地域づくり [92] (1997.02)

849. 地域を支える女性パワー...22：山梨県小淵沢町：母の味でまちおこしを郷土料理と「ふるさと薬膳」を食と健康を考える会 (p.44-45)

地域づくり [94] (1997.04)

850. 地域を支える女性パワー...24：福島県郡山市：社長業に強くなりたい女性だけの経営者団体スタート：福島県女性経営者プラザ会長小口潔子さん (p.42-43)

地域づくり [95] (1997.05)

851. 地域を支える女性パワー...25：岡山県奈義町：行政の大切なパートナー奈義町をよりよくなる女性の会 自ら女性議会を開催 (p.44-45)

中央公論 [112-4] (1997.03)

852. シンポジウム アジア太平洋ジャーナリスト会議：メディアは女の味方か/ジュリー・ヤップ・ダザ[ほか] (p.230-256)

賃金と社会保障 [1193/1194](1997.01)
 特集：社会保障の構造改革をどうみるか：一九九七年・年頭の大考察

853. 現代日本の企業社会と福祉国家の再編成/二宮厚美 (p.10-29)
 854. 社会保障構造改革の方向(中間まとめ)/社会保障関係審議会会長会議 (p.30-42)

855. 介護保険法案要綱と条文・上 (p.86-120)
 856. 児童福祉法改正に関する意見・その三/日本弁護士連合会 (p.122-133)

- 賃金と社会保障 [1196](1997.02)
 857. 昇格・昇進男女差別に画期的判決：芝信金男女差別是正裁判：勝訴判決の意義/今野久子 (p.15-22)
 858. 芝信金男女差別事件・原告レポート：「勝った!女性も課長職に」/鳴海匡子 (p.23-26)
 859. 均等法改正法案要綱/労働省 (p.27-31)
 860. 介護保険法案要綱と条文・下 (p.46-69)

- 賃金と社会保障 [1197](1997.03)
 861. 生活に満足：一九七八年調査以降最低に：国民生活選好度調査/経済企画庁国民生活局 (p.51-64)
 862. 児童福祉法等の一部を改正する法律案要綱/中央児童福祉審議会 (p.65-66)

- 賃金と社会保障 [1198](1997.03)
 863. 春闘をつくる第二弾：差別化政策とこれからの雇用：何をどう見ておくか/九七春闘に寄せて/中野麻美 (p.9-21)

- 賃金と社会保障 [1199](1997.04)
 864. 均等法改正法案は弾劾されるべきか/大脇雅子, 渡寛基 (p.25-40)

- 賃金と社会保障 [1201](1997.05)
 865. ドイツ労働総同盟(DGB)の新基本綱領/柴山健太郎訳 (p.16-27)

- 東京家政大学研究紀要.人文社会科学 [37](1997.02)
 866. 現代女子学生の心身の健康に関する研究：健康生活調査の結果と足の重心動揺/橋口英俊 (p.271-282)

- 東京女子大学社会学会紀要.経済と社会 [25] (1997.02)
 867. 建設業労働者の給源と労働市場(上)/鎌田とし子, 鎌田哲宏 (p.55-77)
 868. 高学歴女性とキャリア形成：スポンサーとその戦略をめぐって/森本恭代 (p.79-89)
 869. テレビ・コマーシャルに見る女性像/栗原あずさ (p.91-97)
 870. 産業革命と病：女工たちの生活に見る製糸業の発展/鈴木智子 (p.113-118)

- 統計 [48-1](1997.01)
 871. ジェンダー統計からみた我が国の現状 2：女性と男性の賃金/鈴木直美 (p.54-55)
 872. 就業状態と平均初婚年齢/統計編集部 (p.56-57) 経済統計課 (p.56-60)

- 統計 [48-2](1997.02)
 特集：労働力調査50年
 873. 労働力調査の課題/篠塚英子 (p.25-28)
 874. ジェンダー統計からみた我が国の現状 3：老人介護の現状/藤本好美 (p.51-52)

- 統計 [48-3](1997.03)
 特集：アフリカ
 875. アフリカの人口爆発とその要因/早瀬保子 (p.1-7)
 876. 国民経済計算と無償労働/新村保子 (p.39-40)
 877. 景気の緩やかな回復基調のなかでの科学技術研究費等の動向/総理府統計局

- 統計 [48-4](1997.04)
 878. ジェンダー統計からみた我が国の現状 4：教育におけるジェンダー 女性の高学歴化の実態/門脇千恵 (p.40-41)

- 統計 [48-5](1997.05)
 879. 労働力調査平成8年平均結果の概要/大野篤子 (p.55-58)

- 時の動き [984](1997.02)
 特集：男女共同参画社会の形成に向けて
 880. 男女共同参画社会の形成の促進に向けた取組：男女共同参画二〇〇〇年プラン/総理府 (p.24-37)
 881. 男女共同参画社会を展望する地平に今、我々は到達した/利谷信義 (p.38-39)
 882. 沖縄県女性総合センター「ている」：女性と男性の自立を促す諸活動の拠点 (p.40-42)

883. 男女が共に尊重し合い支え合う地域社会づくり：
長野県塩尻市 (p.43-45)

都市問題 [88-2](1997.02)

特集：検証・住民投票

884. 地方における「市民」の可能性：新潟県巻町における
市民自治の試みから / 渡辺登 (p.3-21)

都市問題 [88-3](1997.03)

特集：学校教育の可能性

885. 少子化時代の学校と地域：都市学校政策の動向と
課題 / 葉養正明 (p.17-32)

886. 「ゆとり」ある教育と学校五日制 / 山内亮史 (p.45-
56)

887. 教育の「自由化」と保護者の教育費負担：義務教育
との関連で / 伊藤良弘 (p.57-69)

888. 教育行政への市民参加：中野区の教育委員選任を
めぐって / 廣田全男 (p.71-81)

都市問題 [88-4](1997.04)

特集：NPO市民セクターの可能性

889. NPOの実態と期待との狭間：欧米ならびに日本の
動向から / 伊藤裕夫 (p.5-22)

890. 地域福祉とNPO：「福祉の市民化」から見た市民の
協働、参加、エンパワメント / 栃本一三郎 (p.23-37)

891. まちづくりにおけるNPOの役割 / 西郷真理子
(p.39-56)

892. 環境問題とNGO・NPOの役割 / 村田哲夫 (p.57-67)

893. NPOを支える制度とは / 松原明 (p.69-78)

内外教育 [4788](1997.01.07)

894. 学校の楽しみは休み時間や部活：親との会話、女子
の方が活発：総務庁の「青少年の生活と意識に関する
基本調査」(上) / 木津治矢 (p.12-14)

内外教育 [4789](1997.01.10)

895. 子供の半数が社会に不満：総務庁の「青少年の生活
と意識に関する基本調査」(下) / 木津治矢 (p.12-
15)

内外教育 [4796](1997.02.04)

896. 女子中・高生の1割が「性交渉」：宇都宮でテレクラ
実態調査 / 佐藤英史 (p.13)

内外教育 [4800](1997.02.21)

897. 青少年期からの活動経験が影響：生涯学習態度形成
の調査報告書 / 川上幸子 (p.9)

内外教育 [4802](1997.02.28)

898. 生きる力はぐくむ学習を重視：スウェーデンにお
ける「生涯学習」の基盤づくり / 澤野由紀子 (p.7-9)

内外教育 [4808](1997.03.21)

899. 「差」感じない女教師に教職への自信：同年齢の男
性教師に対するハンディ感：日本教育社会学会第
48回大会10「『子育て期』の教職生活」 / 木津治矢
(p.2-4)

内外教育 [4809](1997.03.25)

900. 仕事に意欲的な女性教員：全国大学高専教職員組
合がアンケート調査 / 木津治矢 (p.9)

内外教育 [4810](1997.03.28)

901. 女性教育委員が史上最多に：文部省の96年度「地方
教育行政調査」 / 川上幸子 (p.6-7)

内外教育 [4816](1997.04.16)

902. 7割が「言葉遣いに悪い影響」指摘：テレビへの保護
者の意識調査結果 / 川上幸子 (p.8-9)

内外教育 [4818](1997.04.25)

903. 大学や教委主体に多彩な取り組み：青年男女参画
セミナー実施状況 / 伊豆倉哲 (p.4-5)

904. 地域社会と連携強めるタイの教育 / 平田利文 (p.7-
9)

内外教育 [4819](1997.05.02)

905. 休業土曜はテレビやビデオ：文部省が子供の学校
外活動実態調査 / 伊豆倉哲 (p.4-5)

内外教育 [4824](1997.05.23)

906. 特別の配慮ない中学校3割も：外国人児童・生徒の
指導・実践に関する実態調査結果 / 川上幸子 (p.4-
5)

内外教育 [4831](1997.06.17)

907. 高齢者を学校現場で積極活用：21世紀を展望した
我が国の教育の在り方について：中教審『審議の
まとめ(その二)』全文5(最終回) (p.12-18)

内外教育 [4832](1997.06.20)

908. 小学校「理科」は1位韓国、2位日本：第3回国際数学・
理科教育調査(下) / 川上幸子 (p.2-6)

名古屋女子短期大学研究紀要 [57](1997)

909. 二つの家計調査：第二次世界大戦前後のイギリス
労働者家計 / 奥田伸子 (p.77-92)

名古屋女子大学紀要 家政・自然編 [43](1997.03)

910. 夏休みを中心にみた女子大学生の生活時間の型について / 岩田浩子 (p.1-11)
911. 肥満と身体状況ならびに健康意識と生活習慣との関連 : 岐阜県民健康栄養調査結果から / 長澤伸江, 近藤恵久子, 中島順一 (p.91-100)
912. 自宅外通学をする女子学生の生活情報の収集に関する調査 : 自宅通学生との比較を中心に / 武岡さおり, 岩根博之, 岩下紀久雄 (p.175-186)

名古屋女子大学紀要 人文・社会編 [43](1997.03)

913. 米国の女子大学の復活についての一考察 : 教育経済学の実験場に学ぶ / 大坪彬良 (p.15-27)
914. 中国刑法における「無頼行為罪」について / 三枝有, 鄭澤善 (p.51-63)
915. トルコ共和国の女子教育の現状と課題 / 伊佐治大陸 (p.105-118)
916. 大学における心理教育相談室活動に関する一考察 (2) : 名古屋女子大学教育研究所心理教育相談室における追跡調査 / 田畑洋子, 吉村智恵子 (p.131-144)
917. 虐げられた女性たち : Winesburg, Ohioの世界 / 伊藤太郎 (p.273-286)
918. 「ジェイン・エア」とフェミニズム : ヴィクトリア朝後半から第二次世界大戦まで / 杉村藍 (p.287-299)

奈良県立商科大学研究季報 [7-4](1997.03)

919. 小学校の女性教諭が同校の男性の校長から性的嫌がらせを受けたとして求めた慰謝料請求(セクシャル・ハラスメント)の認容された事例・判例評釈 / 後藤佳旦 (p.53-59)

新潟大学教育学部紀要. 人文・社会科学編 [38-2](1997.03)

920. 教育委員会の構成にみる素人統制の実態 / 雲尾周 (p.211-220)
921. 母親の就労形態と児童発達(Ⅰ) : 母親の就労は子どもの行動・性格の発達に与える影響を与えるか? / 鈴木真由子[ほか] (p.237-244)

日本家政学会誌 [48-1](1997.01)

922. 異世代に対する子どもの関心と理解 : 子どもにとっての高齢者の意味 / 岡野雅子 (p.71-80)
923. 家庭科教育の活性化に向けて 8 : 社会福祉と家庭科教育 / 松村祥子 (p.99-100)
924. 高齢化社会と家庭科教育への期待 / 直井道子 (p.101-102)

日本家政学会誌 [48-2](1997.02)

925. 充実感・生きがい・幸福感・満足感を構成する年齢別要因 / 有元典子, 風間健 (p.1-9)
926. 子育てと産児制限に関する一考察 : 江戸時代の文学書や風俗史料を手掛かりに / 森田登代子 (p.11-17)

日本家政学会誌 [48-4](1997.04)

927. 家庭における性教育の現状と課題 : 大学生調査を通して / 高橋久美子 (p.1-11)
928. 法と生活 5 : 女性にとって家族とは : 民法改正要綱にみる女性の自立 / 利谷信義 (p.87-90)

日本家政学会誌 [48-5](1997.05)

929. 北タイにおける5民族の耐久消費財普及から見た民族格差 / 益本仁雄[ほか] (p.1-12)
930. 住居移動による世帯構成の変化と高齢者の住生活課題(第1報) : 中京大都市圏における世帯構成の類型化, 移動要因, 居住水準の変化 / 鈴木博志, 宮崎幸恵 (p.45-56)

日本家政学会誌 [48-6](1997.06)

931. 妻の就労形態別生涯生計費研究 : 生涯収入の算定 / 田崎裕美, 村尾勇之 (p.1-9)
932. 高齢女子の袖口ボタンかけはずし動作 / 猪又美栄子, 中村亜矢子 (p.57-63)
933. 家庭科教育の活性化に向けて 10 : 「家庭科教育の活性化に向けて」シリーズを終えて : 家庭科教育の現代的課題と家政学 / 中間美砂子 (p.77-79)
934. 国際家政学会(IFHE)プログラム委員会報告 / 澤井セイ子 (p.85-86)

日本女子体育大学紀要 [27](1997.03)

935. 新人見網枝考 / 三沢光男, 武田一 (p.1-9)
936. 大学女子バスケットボール選手のトレーニング効果およびエネルギー消費量に関する研究 / 根本勇[ほか] (p.11-19)
937. 大学女子漕艇選手における年間トレーニングの効果 / 中村夏実[ほか] (p.21-27)
938. 女子体操競技の変遷 : オリンピック体操競技における規定演技の変遷・4 / 新谷鈴子, 北郷千尋 (p.39-44)
939. 女子体育大生における競技種目別月経発現状況 / 川野因[ほか] (p.71-77)
940. 日本女子体育大学生とスポーツ (1) : 心理的特徴の概観 / 石川尚子 (p.105-114)
941. 保育政策の動向と民間育児産業の実態 / 水野恵子 (p.147-157)
942. 二階堂トクヨ資料の研究 7 : 歌のわかれ / 穴水恒雄 (p.173-184)

943. 東京近郊M市における過去10年間にわたる少女の補導実態の多変量統計解析 / 小林敬子 (p.185-191)

日本労働研究雑誌 [441] (1997.01)

944. 米国の同一価値労働同一賃金理論の動向：その法理と実状 / 永由裕美 (p.41-54)

人間工学 [33-2] (1997.04)

945. 若年成人女子の人体計測データからみた体格・体型特性 / 別府美雪[ほか] (p.97-104)

発達 [69] (1997.01)

946. 子どもと生きる 8：いのちをわかちあうくらしを訪ねて / 久賀谷洋 (p.68-75)

母と子 [43-1] (1997.01)

特集：親と子のつきあい方

947. 親と子の関係、そのつきあい方：子どもの自我の発達を軸に / 中谷真智子, 母と子編集部 (p.4-15)

948. ことばと人権 5：在住外国人の母語使用権と日本の現状 / 星野安三郎 (p.58-61)

母と子 [43-2] (1997.02)

949. ことばと人権 6：日本語と漢字にみる男女差別 / 星野安三郎 (p.58-61)

950. 性器切除されるアフリカの少女たち / 中野恵美子 (p.36-37)

母と子 [43-3] (1997.03)

951. メディア時代のウロウロ記 9：援助交際の怪 / 柳史子 (p.54-56)

952. ことばと人権 7：日本語と漢字にみる男女差別 2 / 星野安三郎 (p.57-61)

母と子 [43-4] (1997.04)

953. 中学校歴史教科書に記述された「従軍慰安婦」論争に思う / 山岸秀 (p.27-29)

954. ことばと人権 8：法に見る「女の顔」と「男の睾丸」の価値 / 星野安三郎 (p.43-47)

母の友 [526] (1997.03)

955. 「子育て支援」という言葉 / 伊藤雅子 (p.40-45)

母の友 [529] (1997.06)

特集：育児休暇が明けるとき

956. 座談会：人生の充電期・育児休暇を考える / 矢原晶子[ほか] (p.26-35)

957. 育児休暇はどのくらいがよいのか / 繁田進 (p.36-

44)

958. 育休中上の子は保育園には通えない? (p.45-47)

判例時報 [1586] (1997.02)

959. 親子関係存否確認訴訟制度および戸籍制度の問題点：本誌第一五五四号五一頁記載事件を基にして / 野村弘 (p.3-14)

判例時報 [1588] (1997.03)

960. 判例特報：芝信用金庫男女差別訴訟第一審判決 (p.3-65)

兵庫教育大学研究紀要. 第1分冊, 学校教育・幼児教育・障害児教育 [17] (1997)

961. 小学生の学習意欲及びそれに関連する要因の研究 / 塩見邦雄, 矢田真士, 中田栄 (p.1-13)

962. 教育委員会の政策過程の分析枠組(その一) / 加治佐哲也 (p.35-47)

963. 「生涯学習まちづくり」の地域教育経営論的考察：地方自治体における生涯学習推進機構の組織化モデルを考える / 安原一樹 (p.105-113)

964. ステレオタイプの形成における誤った関連づけ / 横川和章 (p.123-128)

965. Godly Mother：ピューリタン家族の母親像 / 佐藤哲也 (p.129-138)

兵庫教育大学研究紀要. 第3分冊, 自然系教育・生活・健康系教育 [17] (1997.02)

966. 都市化と健康：WHOグローバル・ヘルス・チャレンジ / 永井純子, 勝野眞吾 (p.91-95)

967. 学校「広告」教育の現状と活用に関する研究：小・中・高校生の実態調査を通して / 石岡富貴子, 岡山千賀子 (p.149-162)

ひと [25-1] (1997.01)

特集：学びのための教育宣言

968. 出産をとおして学んだこと：障害を越えて、子育てのなかで愛は育つ / 安積遊歩 (p.9-15)

969. 地域ネットワークづくりと子育て(上)：生協ズケズケおばさんたちの学びあい・育ちあい：食べもの・おしゃべり・子育て・地域づくり / 薄出ゆき子 (p.35-42)

ひと [25-4] (1997.04)

特集：商品化させる性、どろんと虚ろな身体
ポスト・パブルの若者たち “どろんと虚ろな身体”

970. ポスト・パブル、ポスト・オウムの若者たち：浮遊する高校生の身体 / 佐藤学 (p.1-4)

テーマ展示図書案内

婦人教育情報センターでは1階ロビー展示ケースにおいて、3ヶ月毎にテーマを決めて展示を行っています。今回は1998年4月～9月の資料リストをご紹介します。

4～6月

● テーマ

「おとこ達のいま」

● ねらい

従来の男性像・父親像がゆらぎ、今、おとこ達は、会社、地域、家庭の中での自分を自ら問い直し、多様な生き方を探っています。男女共生時代の自分探しを展望しました。

7～9月

● テーマ

「模索する家族」

● ねらい

ひとの人格形成期における家族・家庭の在り方の重要性が、切実に見直されています。価値観の喪失や孤立感に悩む家族関係の解明とその影響、そして新たな信頼関係を模索する家族について考えました。

なお、10～12月 ● テーマ「芸術とジェンダー」

99.1～3月 ● テーマ「21世紀の女性と職場」を予定しています。

凡 例

No. 書名：副書名 / 編著者

出版社（出版年）**請求記号**

「おとこ達のいま」
(平成10年4月～6月)

1. アンドロロジー(男性学): 男のリストラのために / 新井康允ほか著, メトロポリタン(1994) 367: A47
2. 育児で会社を休むような男たち / 男も女も育児時間を! 連絡会編, ユック舎(1995) 366.3: I38
3. XY: 男とは何か / E・バダンテール著; 上村くにこ、饗庭千代子訳, 筑摩書房(1997) 367: 042
4. オトコが「男らしさ」を棄てるとき / 豊田正義著 飛鳥新社(1997) 367: 086
5. 男が語る家族・家庭 / 豊島区男女平等推進センター編 ドメス出版(1994) 367.3: 086
6. 男学女学 / 養老孟司、長谷川真理子著 読売新聞社(1995) 367.21: 086
7. 男がみえてくる自分探しの100冊 / 中村彰、中村正編 かもがわ出版(1997) 367: 086: R
8. 男社会へのメッセージ / 読売新聞福岡総本部女性問題企画委員会編, 海鳥社(1997) 367.2: 086
9. 男たちの生む生まない: インタビュー / ぐるーぷ・アミ編著, 新水社(1993) 367: 086
10. 男たちの更年期クライシス / 宮淑子著 日本放送出版協会(1997) 367.9: 086
11. 男たちの「私」さがし: ジェンダーとしての男に気づく / メンズセンター編, かもがわ出版(1997) 367: 086
12. 男であることの困難: 恋愛・日本・ジェンダー / 小谷野敦著, 新曜社(1997) 410.2: 086
13. 「男という病」の治し方: 女性依存症を断つ - 自分を見つめる男たち / ヴィルフリート・ヴィーク著; 梶谷雄二訳, 三元社(1993) 367: 086
14. 男と女 すれ違う幻想 / 梶谷雄二著 三元社(1994) 367: 086
15. 男の新しい生き方を求めて: 男からみた性差別 / 久留米市社会部女性政策室, 久留米市社会部女性政策室(1995) 367.2: 91
16. 男の子は泣かない: 学校でつくられる男らしさとジェンダー差別解消プログラム / スー・アスキュー、キャロル・ロス著; 堀内かおる訳, 金子書房(1997) 375: 086
17. 男の座標軸: 企画から家庭・社会へ / 鹿嶋敬著 岩波書店(1993) 367.3: 086
18. 男のセクシュアリティを探る: 目覚めよ男たち! アツアツ・トーク / 村瀬春樹、村瀬幸治著, 東研出版(1994) 367: 086
19. 男は終わった / 浪藝祐加著 たま出版(1996) 146.8: 086
20. 男らしさ・女らしさ / ベネッセ教育研究所編集・制作 ベネッセコーポレーション(1997) 376.4: 086
21. 「男らしさ」から「自分らしさ」へ / メンズセンター編, かもがわ出版(1996) 367: 086
22. 「男らしさ」からの自由: 模索する男たちのアメリカ / 中村正著, かもがわ出版(1996) 367.2: 086
23. 女と男の未来予想図 / 日本青年団協議会編 日本青年館青年問題研究所(1996) 367.2: 066
24. 女の部下を叱れない: 男の我慢・女の不満 / 金子雅臣著 築地書館(1995) 366.3: 066
25. 家族手帖: いま、育児・介護に必要なもの、それは、「家族力」です: 人生を模索する8人の男たち / 藤原誠著, 講談社出版サービスセンター(1996) 367.3: Ka99
26. 暮らしの男女学: 男性の自立チェックアンケート報告書 / 草津市女性ライフセミナー実行委員会 草津市企画課女性政策担当(1996) 367.2: 61
27. 結婚しないかもしれない症候群(男性版) / 谷村志穂著, 主婦の友社(1996) 367.4: Ke29

28. シャイマン・シンドローム / ブライアン・G・ギルマー
ティン著；あわやのぶこ訳，新潮社（1994）
143.1：Sh11
29. シングル男性の生活と意識に関する調査 / 東京都生活
文化局，東京都生活文化局（1997）367：36
30. 少し立ちどまって、男たち：男性のためのジェンダ
ー・フリー読本 / 江原由美子、渡邊秀樹、細谷実
東京女性財団（1997）367.2：36
31. 生活意識～父親編～ / くもん子ども研究所編
くもん子ども研究所（1994）365：Se17
32. 性を買う男 / 谷口和憲著
パンドラ（1997）386.4：Se19
33. 全力疾走した男たち：企業戦士の男性学 / 中村彰著
近代文芸社（1996）367：Z3
34. 男女共同参画社会に関する世論調査 / 内閣総理大臣官
房広報室，内閣総理大臣官房広報室（1998）
367：D37
35. 男性改造講座：男たちの明日へ / 足立区女性総合セン
ター編，ドメス出版（1993）367：D38
36. 男性学 / 井上輝子、上野千鶴子、江原由美子編
岩波書店（1995）367.21：N71
37. 男性学入門 / 伊藤公雄著
作品社（1996）367：D38
38. 男性のライフスタイルに関する世論調査（平成5
年） / 内閣総理大臣官房広報室
内閣総理大臣官房広報室（1994）367：D38
39. 男性はいま：「男らしさ」を脱ぎ捨てよう / 川西市人
権・市民部女性政策課，川西市人権・市民部女性政策
課（1996）367.2：64
40. 「男性問題」はいま！？ / 今田忠七朗、片山勝茂編
メンズリブ研究会（1994）367：D38
41. 父親の発達心理学：父性の現在とその周辺 / 柏木恵子
編著；糸魚川直祐、原ひろ子、松田惺著，川島書店
（1993）143.6：C42
42. 父親を考える（明日の家庭教育シリーズ 3）
文部省（1996）379.9：A93
43. 父たちよ家へ帰れ / 宮脇檀著
新潮社（1996）527：C42
44. 妻のピンチだ夫の出番！：おやじの家庭科 / ジャお
クラブ編，協同図書サービス（1995）590：Ts72
45. DEWKS時代の“男の鑑別法”：「家事をする男」と
「家事をしない男」比較調査：調査報告書 / 旭化成工
業共働き家族研究所，旭化成工業共働き家族研究所
（1993）367.4：D67
46. 24時間、「男」しています。 / 大分県福祉生活部女性
青少年課，大分県（1996）367.2：95
47. 橋本治の男になるのだ / 橋本治著
ごま書房（1997）159：H38
48. モノセクシュアル時代の父親学 / 高野清純、新井邦二
郎編著，福村出版（1997）367.3：Mo35
49. よその家（うち）の夫たち：夫の「男女共生意識」調
査から / グループREN著，ユック舎（1997）
367.4：Y94
50. わたしの男性学：「人生相談」にみるイ工意識 / 中村
彰著，近代文芸社（1994）367：W47

「模索する家族」
(平成10年7月～9月)

1. 愛を求める家族たち / ジョーン・ハーヴェイ、加藤恭子著, ジャパンタイムズ (1996) 367.3 : A25
2. アダルト・チルドレン: アルコール問題家族で育った子供たち / ジャネット・G・ウオイティッツ著; 白根伊登恵訳, 金剛出版 (1997) 368.8 : A16
3. アダルト・チルドレンと家族: 心のなかの子どもを癒す / 斎藤学著, 学陽書房 (1996) 367.3 : A16
4. 居場所のない子どもたち: アダルト・チルドレンの魂にふれる / 鳥山敏子著, 岩波書店 (1997) 367.6 : I11
5. 生まれ変わるヨーロッパの家族 / シャーウィン裕子著, インパクト出版会 (1996) 367.3 : U63
6. 女と男のかんけい学: 家族のゆらぎの中で / 養老孟司 [ほか] 著, 学文社 (1997) 367.3 : 066
7. 男と女の自立と新たな絆: いま家庭を考える / 明治大学社会科学研究所 (1997) 367.3 : 086
8. 男も女も今が変わりどき: 人生の午後へ / 沖藤典子著, 労働旬報社 (1996) 369.2 : 086
9. 核家族から単家族へ / 匠雅音著, 丸善 (1997) 361.6 : Ka28
10. 家族をめぐる法の常識 / 二宮周平著, 講談社 (1996) 324.6 : Ka99
11. 家族からの離脱 / 芦野陽一編著, 社会評論社 (1997) 367.3 : Ka99
12. 家族支援ハンドブック: ソリューション・フォーカスト・アプローチ / インスー・キム・バーグ著; 磯貝希久子監訳, 金剛出版 (1997) 369.4 : Ka99
13. 家族それぞれの孤独 / 永畑道子著, 岩波書店 (1998) 367.3 : Ka99
14. 家族とは何か: その言説と現実 / J. F. グブリアム、J. A. ホルスタイン著; 中河伸俊、湯川純幸、鮎川潤訳, 新曜社 (1997) 361.6 : Ka99
15. 家族のこと話そう / 東京新聞生活部編, 東京新聞出版局 (1997) 367.3 : Ka99
16. 家族のなかの女・男・子ども / 斎藤学著, ヘルスワーク協会 (1998) 367.3 : Ka99
17. 家族の問題: こころの危機と家族のかかわり / 亀口憲治著, 人文書院 (1997) 367.3 : Ka99
18. 「家族」はこわい: 母性化時代の父の役割 / 斎藤学著, 日本経済新聞社 (1997) 367.3 : Ka99
19. 家族「外」家族: 子どものSOSを診る医師たち / 椎名篤子著, 集英社 (1997) 367.3 : Ka99
20. 家族のゆくえ: 新しい家族社会学 / 中村正著, 人文書院 (1998) 367.3 : Ka99
21. 家族の崩壊と子どもたち / 平陽真人編, 明石書店 (1997) 369.4 : Ka99
22. 家庭の三つの資源: 時間・情報・アイデンティティ: ロンドン下町の8つの家庭 / サラドラ・ウォルマン著; 福井正子訳, 河出書房新社 (1996) 361.6 : Ka62
23. 絆: 学際的親子関係の研究 / 北原歌子、加藤忠明編著, メディサイエンス社 (1996) 367.3 : Ki99
24. 「近代家族」を超える: 非法律婚カップルの声 / 善積京子編, 青木書店 (1997) 367.4 : Ki42
25. 「幸福な家庭」の心理学: 心のきずなが人生を明るくする / 詫摩武俊著, PHP研究所 (1996) 367.3 : Ko23
26. この子にしてこの父あり: 父親の復権 / ジョージ・マックス・ヴォークト、ステファン・T・シリッジ著; 村尾泰弘訳, プレーン出版 (1997) 367.3 : Ko78
27. こまった家族診ます / 頼藤和寛著, 日本評論社 (1996) 367.3 : Ko65
28. 「しあわせ家族」という嘘: 娘が父を語る時 / 村本邦子著, 創元社 (1997) 367.3 : Sh15

29. 自己愛家族：アダルト・チャイルドを生むシステム / ステファニー・ドナルドソン・プレスマン、ロバート・M・プレスマン著；竹前ルリ、山口恵美子、真板彰子訳，金剛出版（1997）146：J51
30. 育ちあいの家庭をつくる / 田中恒子著
かもがわ出版（1997）159：So15
31. 父と母と子、その愛憎の精神分析 / 小此木啓吾 [著]
講談社（1997）367.3：C42
32. 「父親」になるということ / 辻井正著
同朋舎（1998）367.3：C42
33. 父親崩壊 / 妙木浩之著
新書館（1997）146.1：C42
34. チャイルドマインディング：もうひとつの子ども家族支援システム / 畠中宗一著，高文堂出版社（1997）369.4：C31
35. 中学生・高校生と母親各500名に聞く『家族の危機と「備え」』調査：大切なのは、家族間の会話・コミュニケーション / 大東京火災海上保険，大東京火災海上保険（1996）367.3：C62
36. ちょっとまって！夫婦別姓：家族が「元気の素」になる / 日本の教育を考える母親の会、夫婦別姓に反対する女性フォーラム編，日本教育新聞社出版局（1997）324.6：C56
37. 21世紀家族へ / 落合恵美子著
有斐閣（1997）367.3：N73
38. 「母親する」ということ：いじめ・不登校に悩む母さんたちへ / 片倉暎子著，学研（1996）371.4：H14
39. 非婚の母志願：other happy choice / 水上洋子著
角川書店（1996）367.2：Sh62
40. 夫婦の親：ふたりの関係が試されるとき / 柳博雄著
三五館（1996）367.7：F53
41. 福島瑞穂の夫婦別姓セミナー：これからの「家族のカタチ」を考える / 福島瑞穂著，自由国民社（1997）324.6：F84
42. 父原病：父性なき父親が、子どもを歪ませる / 久徳重盛著，大和出版（1997）367.3：F54
43. フランス家族事情：男と女と子どもの風景 / 浅野素女著，岩波書店（1995）367.3：F92
44. 変貌する家族：家庭問題よろず相談 / 家庭問題情報センター編著，日本加除出版（1997）367.3：H52
45. 「別姓」から問う「家族」 / 諫山陽太郎著
勁草書房（1997）361.4：B39
46. 弁護士が見つめた揺れる女たち：男と女・結婚・家族・仕事 / 福島瑞穂著，海竜社（1997）367.2：B35
47. 母性をつくりなおす / B. K. ロスマン著；広瀬洋子訳，勁草書房（1996）367.3：B66
48. モデルなき家庭の時代：生きる力を育む生活文化へ / 天野寛子著，はるか書房 367.3：Mo13
49. 若者はなぜ大人になれないのか：家族・国家・シティズンシップ / C・ジョーンズ、C・ウォーレス[著]；徳本登訳，新評論（1996）367.6：W23

新着図書案内

1. 「新しい時代を拓く心を育てるために：次世代を育てる心を失う危機（答申）」中央教育審議会（1998.6）
2. 「イキイキ家族の親と子ども：「環流する父親」と『観察する母親』 親（父・母）子編」(くもんファミリー調査からざ vol.13) くもん子ども研究所（1998.7）
3. インターネット資料集 Woman & Internet of Shizuoka for Harmony（1998.5）
4. 「『援助交際』に対する女子高校生の意識と背景要因報告書」 研究代表者福富護 女性のためのアジア平和国民基金（1998.3）
5. 「女のゼネスト 98」 98「女のゼネスト」実行委員会（1998.6）
6. 「海外の母子保健事情：デンマーク、イギリス、スウェーデン、カナダ」海外保健活動調査研究小委員会 日本看護協会（1998.3）
7. 「家庭と職場のストレス」(DEWKSnetみんなのアンケート結果報告) 旭化成・共働き研究所（1998.7）
8. 「変わる雇用機会均等法：新しい女性の働き方（公開シンポジウム）」柴山恵美子述 愛知淑徳大学ジェンダー・女性学研究所（1998）
9. 「企業経営における女性の能力活用と経営戦略の変化の可能性：労働問題リサーチセンター助成調査報告」21世紀男女共同参画労働者像共同研究グループ（1998.5）
10. 「キャンパス・セクシュアル・ハラスメント：『声を上げたい』あなたの支えとなるために」キャンパス・セクシュアル・ハラスメント全国ネットワーク編 click（1998.5）
11. 「高学歴専業主婦の就業意識と生活実態」(資料シリーズ no.77)日本労働研究機構（1998.2）
12. 「子育てに関する意識調査事業調査報告書（概要版）」こども未来財団（1998.3）
13. 「子どもたちがもっと自由にインターネットを活用できる環境づくりを目指して（提言）」教育分野におけるインターネットの活用促進に関する懇談会（1998.6）
14. 「子どもの体験学習の促進と親子交流活動の充実方策について：子どもの体験学習を促進するための親子交流活動に関する調査研究報告書」親子交流活動研究会 国立オリンピック記念青少年総合センター（1998.3）
15. 「市民発『市民による市民のための女性行動計画』」「女性行動計画」作成プロジェクト編 生涯学習でまちづくり事業実行委員会（1998.6）
16. 「生涯学習の展開」富士貴志夫著 鳴門教育大学学校教育研究センター（1998.3）
17. 「生涯にわたる男女平等教育の在り方に関する調査研究中間報告書」男女平等教育研究会（1998.3）
18. 「諸外国における男性の育児参加に関する調査研究」(資料シリーズ no.81)日本労働研究機構（1998.3）
19. 「職場での旧姓使用についての調査報告書」日本労働組合総連合会（連合）(1998.5)
20. 「女性関連施設に関する総合調査」全国婦人会館協議会（1998.3）
21. 「女性並びに子どもに対する国際的人身売買及び商業的性的搾取に関するマニラ会議報告書」女性のためのアジア平和国民基金（1998.3）

22. 「女性の視点から家族介護についての実態調査：10年目の追跡」高齢社会をよくする女性の会（1998.3）
23. 「女性の自立支援と新しいツールとしてのホームページ拡充及びその利用に関する啓蒙活動：女性の人権に関する今日的課題への自立活動・支援事業報告書」Women's Online Media（1998.6）
24. 「知ればなるほどじえんだーものがたり：社会教育指導者のための基礎知識」日本女子社会教育会（1998）
25. 「政党の女性政策アンケート調査報告」北京 JAC（1998.7）
26. 「タイ 女性人身売買の状況」ワイチャイ・ロウジャナボン 女性のためのアジア平和国民基金（1998.3）
27. 「男女共同参画社会基本法（仮称）の論点整理：男女共同参画社会を形成するための基礎的条件づくり」男女共同参画審議会基本問題部会（1998.6）
28. 「男女平等の本」インゲル・ヨハンネ・アルネセン、アウド・ランボー著、男女平等の本を出版する会訳 男女平等の本を出版する会（1998.3）
29. 「チャイルドライン：子どものための24時間電話相談システム：子どもの声に耳を傾け続けて」世田谷子どもいのちのネットワーク実行委員会（1998.3）
30. 「登校拒否等青少年の問題行動に関する調査研究報告書」国立オリンピック記念青少年総合センター（1998.3）
31. 「ドメスティックバイオレンス：トレーニングマニュアル」礼拝会ミカエラ寮和文訳（1998）
32. 「農村生活改善のための女性に配慮した普及活動検討事業：エンパワーメントを重視した農業・農村開発の新しい進め方」国際協力事業団（1998.3）
33. 「『買春に対する男性意識調査』報告書」男性と買春を考える会（1998.3）
34. 「パソコンネットワークに集う在宅ワーカーの実態と特性」（調査研究報告書 no.106）日本労働研究機構（1998.3）
35. 「本当のボランティア・コーディネーターになるために：実践的・先駆的学習体験のあなたとわたしの5日間」（Vnetセミナー報告書 第3回）Vnet社会教育施設ボランティア交流会（1998.7）
36. 「横浜セクシュアルハラスメント裁判報告集：from A to A」横浜セクシュアルハラスメント裁判を支える会（1998.7）
37. 「リプロダクティブ・ヘルス/ライツと環境問題」田代俊子記念基金運営委員会（1998.9）
38. 「PRB人口ハンドブック日本語版」（第3版）アーサー・ハーブ、トーマス・ケイン著 河野稔果日本語監修 大竹財団（1998）
39. 「UNAIDS（国連エイズ合同計画）」国際連合広報センター（1998.6）
40. 「1歳半からの子育て：育児ストレスを減らす工夫・しつけの工夫」安達淑子、曳野晃子 二瓶社（1998.8）
41. 「20年の歩み」国際女性学会（1998.9）
42. "European women's thesaurus" Amsterdam, International Information Centre and Archives for the Women's Movement（1998）
43. "Greater diversity in engineering, science and technology: report of proceedings" Strathfield, Gender Equity Unit by Open Training and Education Network（1998）
44. "International report Day of Action, 28 May 1997" Amsterdam, Women's Global Network for Reproductive Rights（1998）
45. "Korean women and culture" Seoul, Research Institute of Asian Women（1998）
46. "Population Issues: briefing kit 1998" New York, UNFPA（1998）

婦人教育情報センターの臨時閉室のお知らせ

平成10年12月12日(土)から平成11年1月10日(日)の間、国立婦人教育会館電子
計算機システムの機種更新に伴い、婦人教育情報センターを臨時閉室いたします。

御迷惑をおかけいたしますが、御協力方よろしく願いいたします。

なお、臨時閉室期間中はお電話によるお問い合わせも御遠慮下さい。

お問い合わせ先

国立婦人教育会館情報交流課情報係

Tel:0493 - 62 - 6711

Fax:0493 - 62 - 6721

e-mail :webmaster@nwec.go.jp



編集後記

WINET情報No.2をお読みいただきかがでしたでしょうか。

No.2では大きさをA4判にするとともに、WINET情報の魅力の一つとして新たに巻頭言を
加え、田中和子先生に執筆をお願いいたしました。

また、会館事業情報、書誌情報などの充実を図りました。

WINET情報をお読みになった皆様からのご意見ご感想をお待ちしております。

No.3以降も皆様に一緒に育てていただきたいと思います。

(R. I.)

WINET情報 No.2

発行日 平成10年9月30日

編集・発行 国立婦人教育会館

編集・発行 〒355-0292 埼玉県比企郡嵐山町大字菅谷728番地

電話 0493(62)6711(大代表)

印刷 株式会社青松社

電話 03(3479)7111(大代表)
